

理由ニテ濠州代表提案者ト為リ又提案者タランコトヲ切望シタル智利及波斯ノ各代表ニハ提案支持ノ演説ヲナサシムルコトニ纏マリタル様ノ次第ナリキ最後ニ委任状審査委員八名ヲ指名シ散会ス

事項六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題

二七六 一月二十日 在パリ安保海軍中将ヨリ
井出海軍次官宛(電報)

連盟事務局ニ提出セルセシル相互保障条約案

ノ概要報告ノ件

海盟第七四号

(一月二十一日海軍省着)

第三回連盟総会決議第十四ニ基キ「セシル」卿ハ相互保障条約ニ關スル一案ヲ事務局ニ提出セリ該案ハ七章二十二条ヨリ成ル其概要左ノ通

第一章ハ軍備縮減並ニ相互救援ニ關スル一般条項並軍事通報機関トシテ理事会ノ任命セル軍事代表者ヲ各締約国ニ派遣スヘキヲ規定ス

第二章ハ締約国カ受クル特殊ノ脅威ニ關シ理事会ノ採ルヘキ手段ヲ規定ス

第三章ハ締約国ノ一員カ規定ノ制限ヲ超過セル軍備ヲナシタル場合採ルヘキ処置ヲ規定ス

第四章ハ戦争開始ノ際何レノ國家カ侵略國ナルカラ決定スヘキ手続ヲ規定ス

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 二七六

第五章ハ現ニ侵略ヲ蒙リタル國家ヲ救援スヘキ軍事手段ニ就テ其方法ヲ規定セルモノニシテ第十四条乃至第十七条

ヨリ成ル

其内第十六条及第十七条ハ稍々具体的ノモノナル故全文ヲ左ニ掲ク

第十六条被侵略国ニ対スル軍事援助手段

イ、締約国ハ侵略国ニ対抗シテ締約国カ採ルヘキ軍事的方策ノ組織ヲ委托スヘキ一国家ノ大本營カ關係各國軍

ノ使用及其安全ニ關スル特別規定ノ下ニ其軍事指揮ヲ執ルヘキコトヲ受諾ス

ロ、締約各国ハ右ノ指揮官ノ下ニ一定ノ兵力ヲ寄託ス而シテ其兵力ハ各国海軍及空軍兵力ノ四分ノ一以上トスハ、締約国ハ是等海軍及空軍兵力ヲ

(一)第十六条(イ)ニ規定セル軍事指揮官ノフル命令ニ依リ若クハ

(二)斯ル指揮官ノ任命ヲ待ツ間被侵略国ノ大本營ノ計画ニ基キ使用スルコトヲ受諾ス

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 二七七

二九二

ニ、締約国ハ理事会カ請求セル場合ニハ(ロ)ニ規定セル海

軍空軍以外ニ更ニヨリ以上ノ軍事援助ヲ与フヘキコト
ヲ承諾ス但シ理事会カ是等ノ増援ヲ要求セル場合要求

ヲ受ケタル國家ハ理事会ノ一員トシテ其議ニ参与ス

第十七条本條約ハ締約國中歐州以外ノ國家カ歐州ニ亞米

利加以外ノ國家カ亞米利加ニ、亞細亞以外ノ國家カ亞

細亞ニ、亞弗利加以外ノ國家カ亞弗利加ニ軍隊ヲ派遣

スルノ義務ヲ付加セスシ第十六条(ロ)ニ規定セル海軍

兵力ニ関シテハ此限ニアラス

第六章ハ戰費、賠償問題、連盟加入以外ノ國家カ本條約ニ

加入スヘキ場合及本條約ト他ノ諸條約トノ關係並本條約
ノ解釈ニ関スル事項ヲ規定ス

第七章ハ本條約ノ効力發生ニ関スル事項アリ

原文郵送シ全訳文出来次第郵送ス

二七七 一月三十日 在仏國奧山臨時代理大使宛(電報)

一般的保障條約案ニ關シ我ガ方針訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣在仏國奧山臨時代理大使宛電
報第三三号

右訓令

ノ要アリト認メラル場合ニハ左ノ諸点御含ミノ上適宜御
措置相成度シ

一、保障條約ノ細目殊ニ援助供与ノ条件ハ本案ノ実行上極
メテ重要ノ關係アルニ付右ニ関スル諸提案ニ付テハ逐次
請訓ノ上態度ヲ表明スルコトトシ特ニ過重ナル援助ノ義
務ヲ負担セサル様留意スルコト

二、本條約ニヨリ援助ノ義務發生シタリヤ否ヤ並ニ義務發
生ノ場合供与ス可キ援助ノ程度方法ニ付決定ヲ為スノ權
能ヲ帝国ニ留保スルコト

三、連盟決議各項中

(a) 1、2ニハ異議ナシ

(a) 3大体異存ナキモ尚ホ條約案文ニ就キ我方ノ態度ヲ決
スヘシ

(a) 4第一項ニハ異議ナキモ第二及第三項ニ關シテハ連盟
スヘシ

ニ加入セサル強大国ニ近接セル帝國ノ現状ニ鑑ミ並ニ
實行比較的容易ナルヘシトノ見地ヨリ主義上当初ヨリ
一般的條約タラシムルヲ可トスル考ナリ

二七八 二月六日 在パリ安保海軍中將ヨリ
海陸軍及ビ外務大臣宛(電報)

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 二七八 二七九

第三一号(暗)

貴電客年連第二一六号ニ関シ

一般的保障條約ニ對スル帝國政府ノ方針二十九日ノ閣議ニ
於テ別電第三一号ノ通決定シタリ

編註 在仏國奧山臨時代理大使内田外務大臣宛連第二一六
号ニ付テハ「日本外交文書」大正十一年第三冊五三八

文書参照

(別電) 同日内田外務大臣在仏國奧山臨時代理大使宛電報第三三号

右訓令

別電第三二号(暗)

締約國各自ノ安全ニ關シ満足ナル保障ヲ与フルニ足ル一般
的保障條約ヲ締結シ之ニ因リテ一般軍備縮小ノ目的ヲ達成
セムトスル方針ニ就テハ帝國政府ニ於テ全幅ノ贊同ヲ表ス
ル処ニシテ列國協調本案ノ成立ニ常ニ好意ノ考量ヲ加フ可
キハ勿論ナルモ他國ヨリ援助ヲ受クル機會極メテ乏シキニ
拘ラス援助ヲ与ヘサル可カラサル場合比較的多キ帝國特殊
ノ地位並ニ本件ニ關スル輿論ノ現勢等ニ鑑ミ本案ノ審議ニ
際シ帝國側ヨリ進テ條約案ヲ提示スル等積極的態度ニ出テ
サルコト致度尤モ本案ノ討議ニ當リ貴官ニ於テ意見開陳

第六回混成委員会ニ於ケル本邦代表交代ノ件

海盟第七六号

(二月七日接受)

混成委員会ニ於ケル軍代表者トシテ稻垣中將代表中ノ處一
月二十五日付ヲ以テ本職同中將ト交代ノ旨連盟事務局ニ通
牒セリ

本職同會議ニ出席ノ為長尾少將竹中中佐儀我少佐ヲ伴ヒ明
七日発「ジュネーヴ」ニ出張ス

二七九 二月十一日 在ジュネーヴ安保海軍中將ヨリ
海陸軍及ビ外務大臣宛(電報)

第六回混成委員会終了及ビセシル提出ノ相互
保障條約案ニ關スル同委員会ノ決議報告ノ件

(二月十三日接受)

混成委員会ハ去ル九日開會本會議四回分科会一回アリ本十
二日終了ス

既報ノ議題ノ外混成委員会議事手續及「セシル」提出ノ相
互保障條約案上程セラル「セシル」案ハ本會議ニ於テ議論

百出シ遂ニ主義上一致ヲ見ス左記要旨ノ決議ヲナセリ
一、「セシル」案ノ研究ヲ次期會議ニ於テ続行ス

二、同案ヲ軍事委員会ニ付シ所見ヲ求ムルト同時ニ理事会
二七八 二月六日 在パリ安保海軍中將ヨリ
海陸軍及ビ外務大臣宛(電報)

二九三

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一一〇

一九四

ヨリ回答ヲ各國政府ニ送付シテリ閣スル政府ノ所見ヲ求
ムル様理事会ニ請求ス

III、特別小委員会ヲ編成シ軍事委員会ヨリ本案ニ関スル専
門的所見ヲ受ケタル後本案ノ逐条研究ヲナシ報告ヲ作製
セシム

原案ハ一月十九日連盟海第六十号ヲ以テ海軍大臣宛郵送済
軍事委員会ハ四月上旬開催ノ見込其際各國委員ハ政府ノ意
向ヲ体シ審議スル筈

次期混成委員会ハ六月四日ト決定

一一〇 一月十七日 在パリ奥山連盟事務局次長ニ
内田外務大臣宛

□ハハメハ條約ノ原則普及ヲ目的トスル国際

会議ニ非連盟国招請ノ件

廿五書

一月十日付カニテリ連盟理事會議長宛安達

理事宛書翰

ワシントン条約ノ原則普及ヲ目的トスル国際公
議ニ非連盟国招請ノ件

II 安達理事ニリ回答文

大正十一年一月十七日

在日里

Permanente Consultative pour les questions militaires,
navales et aériennes, l'extension de son projet techni-
que aux Etats non Membres de la Société.

Je vous prie de me faire parvenir votre réponse
au plus tôt, et si besoin est, par télégramme, afin que,
le cas échéant, je puisse m'adresser au President de la
Commission Permanente Consultative dans le sens in-
diqué par la Commission Temporaire Mixte.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances
de ma haute considération.

Président en exercice du Conseil

(s) R. Viviani

Son Excellence Monsieur Adatci,

Bruxelles.

(廿五書)

安達理事ニリ回答文

(別紙ニ申)

Sir Eric Drummond,

Genève.

Concernant lettre du 10 courant du Président Vi-
viani, je vous prie lui dire qu'il est hautement souhai-
table à mon avis de soumettre dès maintenant le point
en question à étude Commission Permanente Consulta-

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一一一

一九五

國際連盟帝國事務局次長 奥山清治(臣)
外務大臣伯爵 内田康哉殿

連本公第三六号

首題ノ件ニ関シ別紙甲号ノ通り連盟理事會議長「ヴィヴィ
アリ」ノ來翰アリタルヲ以テ別紙乙号ノ通り安達理事ヨリ
回答致置候条約全置相成度此段申進候也

(付属書I)

一月十日付カニテリ連盟理事會議長宛安達理事翰
ワシントン条約ノ原則普及ヲ目的トスル国際公議ニ非連盟國
招請ノ件

(別紙甲印)

Geneve, le 10 février, 1923.

Monsieur le Ministre,

La Commission Temporaire Mixte pour la réduction
des armements, prenant acte de la décision par laquelle le
Conseil réserve la question d'invitation des Etats non
Membres de la Société à la Conference Internationale
pour l'extension des principes du Traité de Washington
aux Etats non signataires, me demande de m'adresser
au Conseil afin de la prier de considérer l'opportunité de
soumettre, dès maintenant à l'étude de la Commission

tive.

Adatci

一一一 一月二十一十七日 在パリ松田連盟事務局長ニ
内田外務大臣宛

相互保障条約ニ対スル本邦側事務局作成ノ回

知悉ニ闇スル件

廿五書 右回答案

大正十一年一月二十一十七日

在日里

國際連盟帝國事務局長 松田道一(臣)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

相互保障条約ニ闇スル件

(四月十七日接受)

客年連本公第三三三号ヲ以テ及送付置候相互保障条約ニ闇
スル別紙甲号写理事會議長米翰ニ対シ貴電第三二一号御回訓
ニ基キ別紙乙号回答案文作成致候モ本件ニ關シ回答ヲ發シ
タル國「トベベリ」ヘ外四、五ノ小弱國ニ過キサルヲ以
テ取急キ回答ノモ及ノ間敷ト存シ暫ク回答發送ハ差控居候
處本件ハ重要問題ニモ有之別添案文ノ形式字句等ニ關シテ
ヤ一心御審査ノ經置候方可然ト存候条御査閱ノ上何分ノ御

一九五

回報相應度此段申遺憾也

(付屬書)

右回答案

Paris, le _____

Monsieur le Président,

Comme suite à la lettre en date du 23 octobre 1922, de M. da Gama, Président du Conseil à ce moment-là, par laquelle il a bien voulu demander au Gouvernement du Japon ses observations concernant le Traité de Garantie Mutuelle, j'ai l'honneur de vous faire savoir, d'après les instructions de mon Gouvernement, que ses observations sont les suivantes:

- 1° En ce qui concerne les articles 1 et 2 du paragraphe XIV. a) des Résolutions sur la Réduction des armements adoptées par la Troisième Assemblée, le Gouvernement du Japon n'a aucune objection à faire.
- 2° En ce qui concerne l'article 3 de ladite Résolution, le Gouvernement du Japon n'a pas d'objection à présenter sur ses grandes lignes, mais il ne pourra décider l'attitude définitive à prendre que lorsqu'un projet concret de traité aura été présenté.
- 3° En ce qui concerne le 1er alinéa de l'article 4 de ladite Résolution, le Gouvernement du Japon n'a aucune objection à faire.

Quant aux 2ème et 3ème alinéas du même article, le Gouvernement du Japon est d'avis qu'il est préférable, en principe, de choisir dès le commencement la forme de traité général.

Veuillez agréer, Monsieur le Président, l'assurance de ma haute considération.

Charge d'Affaires.

Monsieur René Viviani,
Président du Conseil,
Société des Nations,
Genève.

一一一 一一月一十八日 在パリ安保海軍中将発海陸軍及ビ外務大臣宛

電報第七八番別電

相互保障条約ハ閣スル第六回混成委員会決議

第六回混成委員会ハ於ケルセシル相互保障条約
締結會議ハ狀況報告ハ生

同電

電報

第七八番電

(一一月一日海軍省着)

Robert Cecil 楊社議ハ総田ハ入ラス大体ハ止マシガ遂ニ
主義上ノ一致スラ見ルリ至ラス別電ノ如キ決議トナレリ原

文支持者ハ労働代表ニシテ反対者ハ仏伊政治家及軍人ナリ「セシル」ハ少クモ詎議ノ一部ヲ公開セント提議セルモ議長ハ強硬ナル反対アリ成立セバ「セシル」原案ニ対スル説

明詳細ナリシヲ以テ贊成演説ハ右以外田屋キモノナカリキ
反対説中最モ論理透徹セルハ伊國ハ Schanzer (前外務大臣
ニシテ「ラシムン」會議代表) ナリ
其要旨左ノ如シ

1' 一般的の観察

(1) 総会決議相互保障ノ原則ガ軍事上ヨリ看テ実行シ得く
キモノナルヤ否ヤニ付軍事委員会ニ於テ未タ結論ヲ得
サルコム

(2) 精神的軍備撤廃カ物質的軍備撤廃ノ前提タルヲ要スル

ニ拘ラス國際現状ハ未解決ノ難問題アリ各国民ハ未タ
安心ニ至ラス「ラシムン」會議ニテ海軍縮減ハ成功
シタル太平洋問題ヲ大体解決シ得タルヲ以テナリ
(3) 部分的協約ハ相対抗スル団体ヲ形成スル嫌アリ從ツテ
主義ニシテ一般的條約ニアラサンハ軍備縮減ノ目的ヲ
達スル能ハス然モ一般条約トスレハ凡テノ強国ヲ罷難
スルヲ要ス

然ルニ世界ノ現勢リテハ之カ實現困難ナリ
露獨ノニ調印セサルベキハ明ラカナリ

1' 政治的及法理的

(1) 何レカ侵略國ナルカ決定セラレタル後ハ最早議論ノ余地ナク締約國ハ弱國ニ援兵ヲ指向ケサルベカラサルコトトナリ各國政府及國民ガ戰争ノ原因及理由ヲ自ラ判断シ権利放棄ガ合法ナルコトヲ人民ニ承知セシムルハ困難ナリ又侵略行為其レ自身ノミヲ以テ正邪ノ絶対的標準トスル能バズ

(2) 「セシル」案ニテハ合法的戰争ノ存在ヲ認メス之ノ根本的ニ連盟規約ノ法理ニ違反ス

連盟規約ニ依レハ戰争ノ虞アル場合連盟理事会ハ相当情況ヲ審査シ國際仲裁裁判又ハ連盟ノ勸告ニ依リ紛議ノ解決ニ努ムルモ尚是等ノ方法ニ依リ争者が其名譽ヲ全フセスト考フルトキハ武力ニ訴フルノ途ヲ開クニアリ此方カ寧ロ國民ノ法的心理ニ好ク親切ニ説明セル様思ベル

議長 Viviani ヤ大体反対意見ヲ述べタリ

即チ

(別電)

同日在仏国安保海軍中將発海陸軍及ビ外務大臣宛電報第七八番別電

相互保障条約ニ関スル第六回混成委員会決議

総会決議ニハ被侵略國ニ対シ迅速ニ有効ナル援助ヲ与フ
ヘキヲ認メタリ「セシル」案ハ此点ニ欠クル所アリ連盟
理事会ニテ何レカ侵略國ナルヤ解決スルノ期間四日ハ事
件ヲ審査スルニハ短キニ過ク軍事上ヨリ看テ航空戦化学
戦等ニ鑑ミ四日間ニ決定的アリ其他軍事上ヨリ研究ヲ要
スル点多シ

軍事委員会ノ審議ノ結果ヲ待ツヲ要ス

「セシル」ノ答弁

「シャンツェ」ノ法理論ニ対シ本案ガ連盟規約ト抵触セ
サル様即チ規約ニ依リ合法トセラレタル戦争ノ場合ニハ
之ヲ保障干与セサルコトセハ可ナリ

連盟理事会ノ解決期間四日ニ就キ論セソニ一九一四年ニ

ハ開戦ノ危惧数月前ヨリ署明ナリキ又戦端ヲ開クヨリ之
カ發展スル迄四日以上ヲ要スヘク斯クノ如キ場合ニハ保
障条約ハ効力ヲ現シ侵略國ハ非常ナル抵抗ヲ受クルナル
ヘシ

予ハ本案ヲ軍事委員会ニ送付スルニ同意スルモ混成委員
会ニテモ同時ニ研究ノ歩ヲ進メタシ又軍事委員会ノ所見
ヲ最終規範トスルコトニハ反対ナリ

トシテ「シャンツェ」ガ起チタル次第ナリ其ノ所説ハ大体
奥山代理宛外務大臣発電第三十二ト一致セルアリ

要スルニ今回ノ混成委員会ニテハ大体論ニテ終始シ本職ト
シテハ特ニ軍事的意見ヲ述フルノ必要ヲ見サリシ次第ナル
カ「セシル」卿ハ連盟総会決議ヲ楯ニ取り本年総会迄ニハ
何トカ具体的案ヲ作ルニ努力スヘク從ツテ來ル四月中旬開
催予定ノ軍事委員会ニ於テハ稍々具体的研究ヲ見ルニ至ル
ヘシ此ノ場合ニ於ケル帝国軍事代表トシテノ態度ニ関シテ
ハ三軍協議ノ上追テ意見具申並請訓スルトコロアルヘシ

二八三 三月二十四日 在パリ海陸軍及外務大臣宛(電報)

常設軍事委員会ノ相互保障問題ニ関シ四月十六日ヨ

題及ビ右ニ対スル英國委員ノ提言ニ対処スベ

ヰ我方針ニツキ請訓ノ件

連軍第一九号

(三月二十五日接受)

軍事委員会議長(仏)ヨリ相互保障問題ニ関シ四月十六日ヨ

リ左記ヲ仮議題トシテ委員会開催ヲ通告スルト同時ニ本問
題ノ重要ナルニ鑑ミ慎重ノ審議ヲナサンガ為各委員ハ本問
題ニ關シ本国政府ノ訓令ヲ有シアルヲ希望スル旨申越セリ

相互保障条約ニ関スル決議

(三月一日海軍省着)

第七八番別電

A、混成委員会ハ連盟総会及連盟理事会決議ニ基キ軍備縮
減ニ関スル研究ニ從事中相互保障条約草案ヲ議シ意見交
換ノ後次期会期ニ於テ之カ審議ヲ繼續スルコトニ決スB、混成委員会ハ該草案ヲ軍事委員会ニ移牒シ之ニ関スル
専門的所見ヲ求ム混成委員会ハ連盟理事会ガ該草案ヲ連
盟加入国政府ニ送付シ其ノ考慮ヲ求メ之ニ関スル所見ヲ連盟理事会ニ通報スル様請求セラレンコトヲ勧告ス
C、混成委員会ハ小委員会ヲ任命シ相互保障条約案ニ関ス
ル軍事委員会ノ専門的所見ヲ得タル後該案条項ヲ審査シ
本委員会ニ報告ヲ提出セシムルニ決ス但シ軍事委員会ノ所見ハ晚クモ五月一日迄ニ小委員会ニ
到着スルヲ条件トス

本伊ハ最初ヨリ了解アリタルモノノ如ク反対論者ノ急先鋒
到着スルヲ条件トス

但シ軍事委員会ノ所見ハ晚クモ五月一日迄ニ小委員会ニ
到着スルヲ条件トス

本伊ハ最初ヨリ了解アリタルモノノ如ク反対論者ノ急先鋒
到着スルヲ条件トス

第一、一般条約

A、一般的の条約ノ場合ニ於テ「既定計画ニヨル即時且有

効ナル援助供給ノ原則」ハ如何ニシテ適用セラルルヤ

B、一般条約ニ於テ安全保障ノ性質及価値ヲ明確ニ定メ
得ルヤ

C、保障ト一般的の軍備縮減トノ関係ヲ明確ニ定メ得ルヤ

D、「規定計画ニヨル即時且有効ナル援助供給ノ原則」

ノ適用ハ一般的軍備縮減ノ目的ヲ達シ得ルヤ換言スレ
ハ相互救援ト軍備縮減トノ二者ヲ包括スル一般保障条

約ノ適用ハ如何ナル程度迄可能ナリヤ

第二、部分的条約

A、部分的条約ニ就キ第一ノ各項ト同様ノ研究

B、総会決議第十四ノ四項第三節ニアル如ク条約ニヨリ
テ与ヘラル保障ニ比例シテ軍備縮減ヲ行フコトハ可

第三、地方的協定

総会決議第十五ノ地方的協定ハ之ガ實行上専門的見地ヨ

リ観テ部分的条約ト異ル所アリヤ

第四、「セシル」卿提出ノ条約案ニ關シ前記諸問題ノ研究

第五、前回各種ノ協約ニ相互救援ト軍備縮減ナル二様ノ企図ヲ包括スル相互保障ノ原則ヲ適用スルコトハ専門的見地ヨリ觀テ可能ナルヤ否ヤヲ審議シ其結論ヲ求ム

右議長ノ提案ニ対シ英委員ハ委員会ニ左記要旨ヲ提言セリ

一、軍事委員会ノ任務ヲ実際的ニ遂行スルニハ「セシル」案ノ専門的研究ニ全力ヲ注クヲ可トス

二、連盟総会決議第十四ハ軍備縮減ノ手段トシテ相互保障ノ一般的原則ヲ包括スルノミ今ヤ此原則ヲ具体化セル条約案提出セラレタルニ依リ一般原則ノ討議ヲ繼續スルノ必要ヲ見ス

三、一般論ノ討議ハ軍事委員会ト混成委員会トノ共同作業ヲ伸張スルモノトハ思ハレス混成委員会ノ希望スル所ハ「セシル」案ノ専門的研究ニアリ

右ノ次第ニテ仏ハ根本論ヲ為サントシ英ハ「セシル」条約案ニ就キ具体的研究ニ入ラントシ議題ニ関シ目下英仏両国間ニ意見ノ差異アリ双方共ニ相当理由アランモ開議劈頭之ニ就キ議論アルヘシト予期セラル討議ノ結果議題ヲ議長案即チ主トシテ相互保障ノ根本ヲ研究ナスコトニ落着ク場合ニハ小官等ハ外務大臣発奥山代理宛第三十二番電ノ方針ニ

依ルヘキモ「セシル」案ノ具体的研究ニ進ム場合ニ於テハ

今日ニ至ル迄ノ各會議ノ行掛ヲ考慮シ大体左記主旨ニ依ルヲ適當ト存ス

一、相互保障問題ニ対シ根本方針トシテハ第三十二番電政府方針ニ依ルコト

二、「セシル」条約案ニ対シテハ大体ニ於テ之ヲ建設的考慮ノ態度ヲ採ルコト

三、純軍事的ナラサル条約ニ対シテハ政治的条項ナリトノ理由ヲ以テ軍事委員会ノ審議權限外ナリト論シ我ヨリ進ンテ提議セサルコト

四、「セシル」案第十二条ニ関シ敵對行為起リタル場合他國ニ侵入シタルノ故ヲ以テ侵略者ト決定スルコトハ作戦ノ見地ヨリ觀テ穩当ナラスト論スルコト又侵略者ヲ決スルニ他国侵入ノ条件ハ海軍作戦ニ應用シ難キコト

五、敵對行為始マリタル後ニ於テ何レガ先ニ他国ニ侵入セシヤヲ決定スルノ困難ナルコト

六、連盟理事会纔ニ四日間ニ右侵略者ヲ決定スルノ困難ナルコト

七、第十六条、第十七条ニ依レハ各国ハ海軍力四分ノ一ヲ

世界何レノ部ニモ直接派遣スルノ義務ヲ負フモノト解釈シ得ルモ各國海軍軍備ノ現状ハ右義務ニ即応シ得ル準備アルヤヲ疑フ又此義務ヲ強フルコトハ偶々軍備拡張ニ導クノ嫌アルコト

八、帝國ハ海軍兵力援助ノ主義ヲ否認セス援助ハ必スシモ直接派遣ニ必要トセサル立前ヲ執リ會議ノ大勢若シ局地直接派遣ニ傾キ万々一帝國委員ノミ孤立スル場合ニハ派遣方面ヲ亞細亞ニ局限スルコト

九、帝國ノ現状ニ於テハ亞細亞大陸ノ何レノ部ニ対シテモ四分ノ一ノ空軍兵力派遣ノ義務ヲ負フノ不可能ナルコト右一ヨリ九ノ主旨ニテ進ミ然ルヘキヤ海第七十八号ノ次第モアレハ茲ニ意見ヲ具シ回訓ヲ乞フ

二八四 四月十日 内田外務大臣ヨリ
在パリ松田連盟事務局長宛（電報）
一般保障ニ關スルセシル条約案ニ対シ訓令ノ件

付記 相互保障条約案ニ関スル経過概要（一九三三年四月九日調）

第一七九号（暗）

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 二八四

ニ非ラサレハ成立困難ナリト認メラル殊ニ同案第四章侵略國ノ決定ニ関スル諸条項第五条第九条第十条第十二条第十一条第二十五条ニ於テ脅威ノ有無、侵略國ノ決定等重大問題ニ関スル理事会ノ決議ニ付キ四分ノ三又ハ過半数ヲ以テ足レリトナス点第三条軍事代表者接受ノ条項及第十六条指揮ノ統一ニ関スル一般的規定ノ如キ帝國政府ニ於テ其儘之ニ承認ヲ与フルコト極メテ困難トスル主ナル諸点ナリ尤モ同案ハ他諸國ヨリノ異論ニヨリ結局原案ノ儘成立スルカ如キコト万無之カル可キニ付上記ノ諸点ニ付テモ其成立ノ見込無キ限リハ帝國側ヨリ進ンテ異論ヲ挾ミ反対論ノ急先鋒タルカ如キ態度ヲ執ルハ望マシカラサルニ依リ右ノ含ニテ適當ニ措置セラレタシ

本電本大臣ノ訓令トシテ在墺公使ニ転電アリタシ

(編註) 本訓令ハ四月十日閣議決定ス

(付記) 相互保障条約案ニ関スル経過概要

相互保障条約案ニ関スル経過概要

(一九二三年四月九日調)

連盟規約第八条ハ軍備縮小ノ必要ヲ認メ之カ為ニ連盟理事

会ヲシテ各國ノ地理的地位及諸般ノ事情ヲ參照シテ軍備縮小ニ関スル案ヲ作成セシメムコトヲ規定セリ然レトモ本問題ハ極メテ重要ニシテ關係各國ニ及ス影響甚大ナルヲ以テ輕々ノ措置ヲ執ルコトヲ得ス依リテ連盟理事会ハ本問題審議ノ為ニ常設軍事諮詢委員会及臨時混成委員会ノ二諮問機関ヲ設ケ慎重之ヲ審議スルコトセリ当初ハ専ラ統計調查ノ進捗ヲ見ソツアル折柄一方華府會議ニ於テ海軍軍備制限ノ協定成立シタルニ因リ刺激ヲ受ケ本問題ニ對スル熱度高マリ客年二月第三回臨時混成委員会開催ノ際英國委員工ソシャーヨリ華府ニ於ケル海軍軍備制限條約ニ做ヒ各國ノ常備陸空軍ヲ一定ノ比率ニ依リ制限セムトスル案ノ提出ヲ見タルヲ以テ客年七月第四回臨時混成委員会ハ之ヲ審議セリ其ノ際セシル卿ハ軍備縮小ノ達成ニハ先ツ各國ニ保障ヲ与フル必要アリトシ保障条約案ヲ提出セリ之本決議案ノ発端ニシテ其ノ後引続キ臨時混成委員会第二分科会(八月)第五回臨時混成委員会(九月)等ニ於テ審議セラレ第三回連盟総会ハ右臨時混成委員会ノ報告ニ基キ別紙甲号ノ如ク決議スルニ至レリ

其ノ後本案ニ關シテロバート・セシルヨリ客年十二月十九日別紙乙号ノ如キ條約案ヲ連盟理事会ニ提出スル処アリ本

年二月九日ヨリ十二日ニ亘リジュネーヴニ開カレタル第六回混成委員会ニ於テハ主トシテ同案ニ關シ討議シタルカ議論百出シ遂ニ主義上ノ一致ヲ見ス單ニ左記要旨ノ決議ヲナスニ止リタリ

ニ對スル回答ナリ

本案ニ關シテ既ニ本年二月ノ混成委員会開会以前ニ当リ一月二十九日閣議決定ヲ經テ別紙在仏奥山代理大使宛第三十二号ノ如ク帝國ノ根本方針ニ關シ訓令ヲ發シタルコトアリ

(別紙甲号)

一般的の相互保障条約ニ關スル第三回連盟総会決議

一般的の相互保障条約ニ關スル決議(仮訳)

二、同案ヲ軍事委員会ニ付シ所見ヲ求ムルト同時ニ理事会ヨリ同案ヲ各國政府ニ送付シ之ニ關スル政府ノ所見ヲ求ム様理事会ニ請求ス

三、特別小委員会ヲ編成シ軍事委員会ヨリ本案ニ關スル専門的所見ヲ受ケタル後本案ノ逐条研究ヲナシ報告ヲ作製セシム

同會議ノ一般空氣及賛否兩論ノ要旨ハ別紙丙号在仏安保海軍中將堯海陸軍外務大臣宛第七十八番電所述ノ如シ來ル四月十六日ヨリ軍事委員会開催セラレ本案ヲ討議スル答ナルニ付キ在歐帝國軍事委員会代表ハ別紙丁号連軍第十九号ノ如ク意見ヲ具シテ請訓ヲ仰キ來レリ爰ニ審議セムトスル松田國際連盟帝國事務局長宛電報案ハ右請訓

遂行スヘキ責務ヲ負担スルコト能ハサルヘシ
3、此ノ如キ保障ハ一切ノ國ノ加盟ヲ許容スル協定ニシテ且其ノ加盟國ニ対シ其中ノ一國カ攻撃セラレタル場合ニ於テハ予メ協定セラレタル計画ニ基キ該被攻擊國ニ迅速且有効ナル援助ヲ与フヘキ義務ヲ負担セシムル防禦協定ニ之ヲ求ムルヲ得ヘシ但シ被攻擊國ニ対シテ右ノ援助ヲ与フヘキ義務ハ原則トシテ地球ノ同一地方ニ存在スル諸國ニ限り之ヲ負担スヘキコトヲ条件トス然レトモ歴史的、地理的又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ一國カ他國ヨリ攻撃ヲ受クヘキ特異ノ危險ノ中ニ在ル場合ニハ其ノ防衛ノ為メニ前述ノ計画実行ニ関シ特殊ノ手段ヲ講セサル可カラス

4、一般的軍備制限ハ前掲三提議ノ目的ニシテ相互保障条約ハ右目的ヲ達成スル手段ナルヲ以テ予メ軍備制限ニ同意スルコトハ該条約ノ第一条件ナリトス軍備制限ノ遂行ハ之ヲ一般的の条約ニ依リテ行フコトモ希望スル処ナルモ或ハ又一切ノ國ニ拡張スルコトヲ目的トシ一切ノ國ノ加盟參加ヲ許容スル局部的条約ニ依リテモ行フコトヲ得ヘシ第一ノ場合ニ於テハ該条約

(別紙乙号)

ロバート・セシルノ保障条約案(仮訳)

ロバート・セシルノ保障条約案仮訳

(一九二三年十二月十九日付ノセシル案ニシテ第六回混成委員会ニ於テ審議シタルモノナリ)

一、総則

第一条 締約国ハ若シ締約国中ノ一国ニシテ攻撃ヲ受ク

ルモノアル場合ニ於テハ他ノ締約国ハ各自カ本条約及本条約ヲ補充スル条約ノ規定ニ従ヒ執ルヘキコトヲ約シタル措置ヲ直ニ執ルヘキコトヲ茲ニ約ス尤モ右義務ハ被攻擊國カ後記()条ノ軍備縮小ヲ実行シタルコトヲ条件トシテ生スヘキモノトス

第二条 各締約国ハ前条ノ約束ニ鑑ミ直ニ平時ノ兵力ヲ本条約付属書ニ於テ各國ノ為ニ定メタル様式及程度ニ縮小シ爾後平時ニ於テハ連盟理事会ノ同意ヲ得ルコト無クシテ之ヲ増加スルコト無カルヘシ

第三条 各締約国ハ連盟理事会カ任命スルコトアルヘキ國際連盟ノ軍事代表者ヲ接受シ理事会カ時々要求スルコトアルヘキ軍事報道ヲ右代表者ニ供与スヘキコトヲ約ス

二、平時ニ於ケル脅威(一般規定)

第四条 締約国ハ締約國タルト非締約國タルトヲ問ハ斯他國ノ準備又ハ其ノ他ノ行動ニ因リ或ハ其ノ地理的位置又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ特ニ危險ナル地位ニアリト思考スル場合ニハ國際連盟事務總長ニ之ヲ通告スルコトヲ得事務總長ハ直ニ國際連盟理事会ヲ招集スヘン

ハ之ヲ以テ一般的軍備制限ノ目的ヲ達成シ得ルニ至ルヘク第二ノ場合ニ於テハ制限ノ程度ハ保障条約ニ依リルカニ関シ臨時混合委員会カ審査ノ上提出スル意見ヲ聞キタル後更ニ該方法ヲ明確ニ実現スルニ必要ナル政治的及軍事的機關ニ関スル計画ヲ立案シ各政府ノ審査決定ヲ受クル為メ該計画案ヲ各國政府ニ送致ス可シ

連盟理事会ハ右二方ノ各々カ如何ニシテ遂行セラレ得ルカニ関シ臨時混合委員会カ審査ノ上提出スル意見ヲ聞キタル後更ニ該方法ヲ明確ニ実現スルニ必要ナル政治的及軍事的機關ニ関スル計画ヲ立案シ各政府ノ審査センコトヲ要求シ又臨時混合委員会カ其ノ調査ヲ続行シ且前掲諸提議ヲ精確ナラシムル為該提議中ニ包含セラル原則ヲ骨子トスル条約案ヲ起草センコトヲ要求ス

(本条約付屬書ノ許容スル程度ヲ超過スル軍備ヲ維持スルニ因ル脅威)

第八条 締約国ハ本条約ニ加盟スル或ル國ノ軍備カ本条約ノ付屬書ニ依リ許サレタル軍備ニ超過スト認ムル場合ニハ之ヲ連盟事務総長ニ通告スルコトヲ得事務総長ハ直ニ連盟理事会ヲ招集スヘシ

第九条 若シ理事会カ四分ノ三未満ニ非ル多数ヲ以テ右軍備ハ通告ノ如ク過大ナリト認ムヘキ合理的理由アリト為シタルトキハ關係國ニ対シ其ノ正当ナリト認ムル意見ヲ通告スヘシ

第十条 若シ理事会ノ多數カ六月ヲ経過スルモ該國ノ陸海及空軍カ條約ノ規定ニ適応セラレタリトノ満足ヲ得サルトキハ

(イ) 理事会ハ其ノ適當ナリト思考スル条件ノ下ニ本条

約ニ基ク該國ノ有スル一切ノ権利ヲ停止スヘシ

(ロ) 理事会ハ其ノ適當ナリト認ムル一切ノ手段ヲ執り得ヘク其ノ手段中ニハ規約第十六条ノ規定スル制裁ニ類似スル制裁ヲ過大ノ軍備ヲ有スル國家ニ対シ執ルヘキコトヲ締約国ニ勸告スルコトヲモ含ムモノト

滞ナク連盟理事会ヲ招集スヘシ

(ロ) 連盟理事会ハ右通告ヲ事務総長カ受ケタル日ヨリ

遅クトモ四日以内ニ敵對關係ニアル國ノ孰レカ侵攻

國ナルヤラ決定スル義務ヲ有ス

(注意) 本項ニ関シ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ決ス

ヘキ旨ノ追加訂正アリタリ

(ハ) 理事会カ考量ニ入ルヲ以テ適當ナリト思考スル

他ノ事状酌量アル場合ハ除キ他國ノ領土ヲ侵シタル

國家ヲ以テ侵攻国トスヘシ

第十三条 締約国ハ理事会カ第十二条ニ從ヒテ為シタル

決定ヲ受諾シ右決定アリタルトキハ直ニ本条約ノ規定

スル其ノ義務ヲ履行スル為必要ナル措置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

五、攻撃ヲ受ケタル國家ニ対シテ与ヘラルヘキ軍事的援助ニ関スル規定

第十四条 締約国ハ理事会カ前記第十二条ノ規定ニ從ヒ

侵攻行為ヲ犯シタルト決定シタル國ニ対シテ後記ノ規

定ニ從ヒ協力スヘキコトヲ約ス締約国ハ單ニ被攻擊國

防守ノ為ニ執ル措置ニ於テ協力スルニ止マラス尚又侵

ス即チ締約国ハ之ニ対シ直ニ一切ノ通商上又ハ金融上ノ關係ヲ断絶シ自國民ト違約國國民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且連盟國タルト否トヲ問ハス他ノ總テノ國ノ國民ト違約國國民トノ間ノ一切ノ金融上通商上又ハ個人的交通ヲ防遏スルコト及締約國カ本条ニ依リ金融上及經濟上ノ措置ヲ執リタル場合ニ於テ之ニ基ク損失及不便ヲ最小限度ニ止ムル為相互ニ支持スヘキコトヲ勸告スルコトヲ含ムモノトス

第十五条 締約国ハ侵略行為ヲ犯シタルト認ムル場合ニ於テ孰レカ侵攻國ナルカラ決定スル為ノ規定

第十六条 締約國カ本条約ノ加盟國タルト否トヲ問ハス他ノ國ト敵對的關係ニ入りタル場合ニ於テハ

(イ) 該國ハ之ヲ連盟事務局長ニ通告スヘク事務総長ハ遲

ノ補充條約ヲ商議スヘシ

四、攻撃アリタル場合ニ於テ孰レカ侵攻國ナルカラ決定スル為ノ規定

第十七条 締約國カ本条約ノ加盟國タルト否トヲ問ハス

他ノ國ト敵對的關係ニ入りタル場合ニ於テハ

(イ) 該國ハ之ヲ連盟事務局長ニ通告スヘク事務総長ハ遲

協力スヘキコトヲ約ス

シタル國ニ対シ規約第十六条ニ從ヒ完全ナル經濟上及

金融上ノ封鎖ヲ直ニ実施スヘキコトヲ約ス

第十八条 締約國ハ上記第五条及第十二条ニ從ヒ締結セ

ラレタル補充條約ト關係無ク又ハ之ニ從ヒ被攻擊國ニ

対シ左ノ軍事的援助ヲ与フルコトヲ約ス

(イ) 締約國ハ理事会ヨリ侵略國ニ対シテ締約國ノ執ル

ヘキ軍事的措置ノ編成ヲ委任セラレタル國ノ參謀本

部ノ一般的軍事指揮ヲ受諾スヘキコトヲ約ス尤モ関

係締約國カ其ノ兵力ノ使用及安全ニ関シ作成セムコ

トヲ欲スル特別ノ条件ハ付セラルヘキモノトス

(ロ) 各締約國ハ其ノ海軍及空軍ノ四分ノ一ヲ下ラサル

協定セラレタル割合ノ兵力ヲ右軍事指揮ノ下ニ維持

スヘキコトヲ約ス

(ハ) 締約國ハ右海軍及空軍ヲ(一)第十六条(イ)ニ依リテ任命セラレタル軍指揮者ニ依リテ与ヘラレタル訓令又

ハ(二)右任命ニ至ラサル以前ニ於テハ被攻擊國參謀本

部ニヨリテ作成セラレタル計画ニ從ヒ使用スヘキコトヲ約ス

(二) 締約国ハ理事会ノ請求アリタル場合ニ於テハ上記

(ハ) ニ規定セル海軍及空軍ノ外ニ一層ノ軍事的援助ヲ供与スヘキコトヲス尤モ理事会カ右請求ヲ為シタル場合ニ於テハ右援助供与ノ請求ヲ受ケタル國ハ理

事会ノ一員トシテ理事会ニ議席ヲ有スルモノトスル場合ニ於テハ右援助供与ノ請求ヲ受ケタル國ハ理

事会ノ一員トシテ理事会ニ議席ヲ有スルモノトス

第十七条 本條約ノ如何ナル規定モ歐州ニ在ラサル國カラサル國カ亞米利加ニ在ラサル國カ亞米利加ニ在ラサル國カ亞米利加ニ亞細亞ニ在ラサル國カ亞弗利加ニ軍事的援助ヲ供与スルコトニ関シテ適用アルモノニ非ス但シ本條ハ上記第十六条(ハ)ニ規定スル海軍ニ関シテハ此ノ限ニ在ラス

六、賠償及其ノ他ノ規定

第十八条 締約国ハ本條約ニ基ク軍事的行動ノ費用ハ該行動遂行中ニ受ケタル一切ノ物質上ノ損害ニ對スル賠償ヲモ含ミ

(イ) 侵略国及

(ロ) 必要アル場合ニ於テハ必要ノ限度ニ於テ締約国ニ依

「ヌイイー」及「トリアノン」ニ於テ調印セラレタル平和条約ノ如何ナル規定ヲモ変更シ又ハ之ニ影響ヲ及スモノト看做サレサルヘシ

第二十二条 締約国ノ海軍陸軍及空軍又ハ準備カ本條約ノ付屬書ニ於テ協定セラレタル程度ヲ超過スルヤ否ヤニ關スル問題ヲ除キ本條約ノ意義及適用ニ関スル一切ノ問題ハ常設國際司法裁判所ニ付セラルヘク其ノ決定ヲ以テ最後ノモノトス

第二十三条 本條約ニ於テ軍(military)ナル語ハ海軍及空軍ヲ含ムモノトス前後ノ關係上然ラサルコトヲ要スル場合ノ外単数ハ複数ヲ含ムモノトス

七、本條約ノ効力発生

第二十四条 締約国ハ本條約付屬書ニ於テ各締約国ノ為ニ定メタル軍備ノ程度ハ本條約ノ効力發生後十年ヲ経過シテ更正セラルヘキモノナルコトヲ約ス

第二十五条 本條約ハジュネーヴノ國際連盟事務總長ニ批准書ヲ寄託スルコトニ依リ批准ヲ了スルモノトス本

条約ハ或ル國ノ批准後直ニ即チ

歐州ニ於テハ大不列顛國、仏蘭西國、独逸國、伊太利

リ

連盟理事会カ多数決ヲ以テ該目的ノ為ニ任命セル公平ナル委員会又ハ常設國際司法裁判所ノ決定スル割合及方法ニ於テ負担セラルヘキモノナルコトヲ約ス

第十九条 連盟國、亞米利加合衆國、独逸國又ハ露西亞國ハ本條約調印國ナラサルトキ連盟事務總長又ハ各締約國ニ加入ノ通告ヲ為スコトニ依リ本條約ニ加入スルコトヲ得

如何ナル國モ連盟理事会又ハ締約國ノ同意ヲ以テ条件付ニテ又ハ本條約条項ノ一部分ニ付テノミ加入スルコトヲ得

尤モ常ニ右加入ハ該加入希望國カ本條約ノ規定ニ從ヒ其ノ軍備ヲ縮小シ又ハ縮小セムトルモノニ非ル限り承認セラレサルモノトス

第二十条 本條約ノ如何ナル規定モ世界ノ平和ヲ維持セムトスル規約ノ規定ヲ制限シ又ハ之ニ影響ヲ及ホスモノト看做サレサルヘシ

第二十一条 本條約ノ如何ナル規定モ千九百十九年及九百二十年「ヴェルサイユ」「サン・ジェルマン」

國及露西亞國又ハ上記諸國中ノ四國亞細亞ニ於テハ日

本国及其ノ他ノ一國亞米利加ニ於テハ亞米利加合衆國及其ノ他ノ一國先ツ之ヲ批准スヘク右批准後直ニ右各大陸ニ於テ常ニ左ノ条件ノ下ニ効力ヲ發生スルモノトス

(イ) 若シ本條約ニ國名ヲ掲記セラレタル諸國ニシテ本條約ノ効力發生後二年内ニ本條約ノ付屬書ニ從ヒ其ノ軍備ヲ縮小セサルトキハ本條約ハ該國ニ對シ無効ニシテ本條約ヲ批准シタル他ノ締約國ハ何時ニテモ之ヲ破棄シ得ルコト

(ロ) 締約國ニ對シ本條約第一条第二条及第十三条乃至

第十九条ニ定メタル権利及義務ハ理事会カ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ該締約國カ本條約ノ付屬書ニ從ヒ其ノ軍備ヲ縮小シタルコト又ハ該國ノ本條約批准後二年内ニ右縮小ヲ實行スルコトヲ確保スルニ必要ナル措置ヲ執レルコトヲ確認シタル場合ニ非レハ其ノ効力ヲ生セサルコト

(ハ) 脅威ヲ受クト思考スル締約國カ本條約第四条又ハ第八条ニ依リ其ノ旨ヲ事務總長ニ通告シタル場合若

シ該國カ希望スルニ於テハ該國ノ要求スル其ノ防守ノ為ノ特別ノ補充条約カ効力ヲ發生スルニ至ル迄ハ

該國ノ権利及義務ハ停止セラルヘキコト

二八五 四月二十日 内田外務大臣(ヨリ) 在パリ松田連盟事務局長宛(電報)

連盟事務局宛回答ヲ當分見合セ方訓令ノ件

第二〇九号(暗)

貴信連本公第五二号ニ関シ

事務局ヘノ回答ハ追テ申報スル迄發送見合ハサレ度シ

二八六 四月二十三日 在ジュネーヴ清河海軍少將(ヨリ) 加藤海軍大臣(ヨリ) (電報)

二八七 大正十二年四月二十三日 在ジュネーヴ清河海軍少將(ヨリ) 加藤海軍大臣(ヨリ) (電報)

第十回常設軍事諮詢委員会ニ於テ相互保障ノ

原則内容及ビセシル案討議ノ件

第八八番電 (四月二十五日海軍省着)

一、第十回軍事委員会ハ十六日開催相互保障ノ原則内容及

「セシル」案ヲ討議シ二十三日終了セリ

前者ハ一般的の条約ヲ可トスルモノト部分的条約ヲ可トスルモノトノ二説ニ分レ此兩説ヲ理事会ニ報告スルニ決ス

在仏 内田外務大臣

松田 國際連盟帝國事務局長

相互保証條約ニ関スル条件

和一機密第一号

標記ノ件ニ關シ二月二十七日付連本公第五二号ヲ以テ御申越ノ趣了承不取敢往電第二〇九号ヲ以テ事務局ヘノ回答発送方御見合ハセアリタキ旨申進置候處本件ニ關スル當方ノ

所見御参考ノタメ左ニ申進候

相互保証條約ニ關シテハ帝國政府ニ於テ常ニ好意ノ考慮ヲ

加フ可キ所存ナルコト往電第三十二号申進ノ通リニ有之候

処本件ニ關スル第三回連盟総会ノ決議並ニ該決議ノ趣旨実

現ノタメ立案サレタル「セシル」條約案ハ各國ニ極メテ重

大ナル影響ヲ及スヘキ事項ヲ規定スルニ係ハラス其ノ内容

形式共ニ極メテ不完全ニシテ世界ノ現状ニ於テハ同案ニ基

キ各國ガ重大ナル義務ヲ負担スルカ如キ事実不可能ナリト

云ヒ得可ク其ノ成立ヲ見ルニ至ル迄幾多ノ曲折アル可キハ

予想ニ難カラサル次第ニ有之候殊ニ帝國ハ混成委員會軍事

委員會連盟理事会等ニ於テ本件ニ付キ直接間接意見表示ノ

機會ヲ有シ居ル義ニモ有之旁々理事会議長ノ來翰ニ對シテ

ハ敢テ取急キ回答ヲ發スルノ實益無之カル可キカト思考被致候就テハ今少シク将来ニ於ケル本件推移ノ模様ヲ観望シタル上適當ノ時機及方式ニ於テ本問題全般ニ對スル帝國ノ

態度ヲ表明スルコト致度ニ付キ右様御了知相成度尤モ諸般ノ情勢上貴官ニ於テ何等回答ノ要アリト認メラル場合タル上適當ノ時機及方式ニ於テ本問題全般ニ對スル帝國ノ態度ヲ表明スルコト致度ニ付キ右様御了知相成度尤モ諸般ノ情勢上貴官ニ於テ何等回答ノ要アリト認メラル場合ニハ一応御請訓ノ上御回答相成候様致度往電第二〇九号敷衍旁々此段回答申進候也

又後者ハ軍事的見地ヨリスレハ保障ノ目的ニ合セサルモノトノ協定セリ

小官、竹中二十五日巴里ニ歸ル

二、本委員會ノ決議ヲ参考トシ「セシル」案ヲ論議スヘキ

混成委員會特別小委員會ハ五月中旬倫敦ニ開催ノ筈

陸軍トノ協定ニ依リ小官之ニ参列ス

三、今回會議ノ概報ハ巴里ヨリ電報ス

二八八 四月二十四日 在ジュネーヴ安達連盟理事会代表 内田外務大臣(ヨリ) (電報)

第二十四回連盟理事会ニ於ケル軍備制限ニ關スル件

第九号 了ス

二十日午後及二十一日午前及午後ノ會議ニ於テ左ノ件ヲ議

議題第九、Aニ關シ

軍事予算ヲ一九二三年ノ数字ニ制限スル様勧告スヘントノ

総会決議ハ之ヲ各國ニ移牒セス混成委員會ヲシテ次期総会ニ精密ナル提案ヲナス為メ研究ヲ続行セシムルコトトス

Bニ關シ

混成委員會ニ於ケル軍事委員會委員ハ其ノ個人的能力ニ依リ任命セラレタルモノナリトノ決定ヲ与フ

Cニ關シ

兵器ノ民營及取引ニ關スル總会ノ決議ニ就テハ如何ナル条件ノ下ニ合衆國ハ列國ト協力セントスルカラ照会スル様議長ニ委嘱ス

Dニ關シ

Eニ関シ

前回理事会ニ於テ混成委員会委員ニ任命セラレタル Holsts 氏及ヒ Villegas 氏ハ共ニ之ヲ受諾シタルモ經濟委員会ノ推薦ニ基キ任命セラレタル Vilfredo Pareto 氏ハ之ヲ拒絶セル旨事務総長ヨリ報告アリ理事会ハ經濟委員会ニ他ノ候補者推薦方ヲ依頼ス

Fニ関シ

之ヲ是認ス

Gニ関シ

会期ノ決定ヲ次回ニ延期ス

二八九 五月一日 在パリ海陸空軍三代表ヨリ
海陸軍及ビ外務大臣宛(電報)

第十回常設軍事諮詢委員会ニ於テ相互保障ノ

原則研究及びセシル案審議ノ件

別電一 同日在パリ海陸空軍三代表発海陸外三天臣宛電
報連軍第二二号

フランス、ベルギー、スウェーデン、ブラジル

四国委員覚書要旨

二 五月一日同右電報連軍第二二号

員会報告トス其ノ要旨左ノ通

- イ、此条約ニ依リ保障ノ義務ヲ遂行セントセハ却テ各國軍備拡張ニ傾クノ嫌アリ
- ロ、軍事監督ハ代表者ヲ各國政府ニ於テ接受スルモ実施困難ニシテ無効ナリ
- ハ、連合編成軍ノ統一指揮困難ナリ
- ニ、侵略國ノ決定困難ナリ
- ホ、締約國カ安心シテ軍備縮減ヲ行フニハ此条約ノ保障不充分ナリ
- ト、要スルニ条約案ハ相互保障ノ原則ニ合致セサルモノナリト決論ス

(別電一)

五月一日在パリ海陸空軍三代表発海陸外三天臣宛電報連軍第二二号
フランス、ベルギー、スウェーデン、ブラジル四国委員覚書要旨
連軍第二二号 (五月二日海軍省着)

四国委員覚書ハ仮原案ヲ少シク修正シタルモノニシテ元ノ仮案ハ極メテ長編ニシテ学理的議論ニ依リ特別条約ヲ可トスル決論ニ導ク如ク巧ニ構成シタル嫌アリテ難解ノモノナリ

一、第十回軍事委員会ハ十六日開会二十三日終了議事ハ先ソ総会決議第十四相互保障ノ一般原則適用ニ就キ研究シ次テ「セシル」案ヲ審議セリ英委員ハ一般原則ノ討議ニ就テハ政府ノ訓令ナキヲ理由トシ之ニ加ハラス

一、相互保障ノ原則研究ハ仮案ヲ基礎トシテ進行中委員ノ意見大体二派ニ分レ白耳義、瑞典、伯刺西爾委員ハ大体ニ於テ仮案ニ賛シ之ニ小修正ヲ加ヘタルモノヲ以テ四国委員覚書(連軍第二十一号)トシ(但シ瑞典委員ハ部分的条約ニ關シテハ(脱)ノ覚書ヲ發表セリ)伊太利、西班牙ハ一般条約ヲ可トスル趣旨ニ覚書(連軍第二十一号)ヲ作製シ両者ヲ理事会ニ報告スルコトトセリ

帝国委員ハ主義ニ於テ伊西案ニ賛成ノ意ヲ表明セリ英委員ハ終始全然討議ニ加ハラサリシモ陸軍部会ニ於テ同國委員ノ述フル所ニ依レハ英國ハ一般条約ヲ主体トシ之ニ特別条約ヲ配合スル折衷案ヲ可トスルカ如シ

三、「セシル」案ノ研究ハ先ツ各軍部会ニ於テ審議シ委員会ハ部会報告ヲ(脱)シ部会報告ヲ集メタルモノヲ以テ委

四国委員覚書要旨左ノ如シ

第一章ハ保障条約ニ必要ナル一般条件ト題シ吾人ノ目的トシテ戦争防止並長期戦防止ヲ前提トシ條約ノ構成ハ侵略者ヲシテ初メヨリ戦争ヲ断念セシムルカ(上策)開戦後忽チ撃滅セラルルヲ覚ラシムルカ(中策)長期戦モ尚成算ナシト思ハシムル(下策)如キモノナルヲ要ストナシ之ヲ敷衍シテ被侵略國ハ如何ナル場合ニ於テモ領土侵入ヲ蒙ルヘカラストノ議論ニ導キ之ガ為ニハ相互援助ハ既定計画ニ依ル即時且有効ナルヲ要シ従ツテ事変ニ応スル為条約ノ改定並相互兵力ニ対スル監視ノ必要等ヲ論シアリ

第二章ハ外力ニ依ル保障ハ自力ニ比シ頗ミ少キコト援軍ハ決勝的行動ヲ要スル戦争初期ニ到来セサルコト他國政府ノ好意ニ依ル援軍ハ其利用確實ナラサルコト並侵略其ノモノヲ決定スルノ困難ナル為条約ハ自働的ニ運行シ難キコト等ヲ挙示シアリ

一、各國ハ四團ノ情勢ヲ異ニシ戰争ノ性質ヲ異ニシ其被侵略者タルト援助者ナルトニ依リ兵力ノ性質ヲ異ニス

故ニ援助的確ナラントセハ保障條約ニ分裂スヘキモノアリ一般的條約ノ援助ハ即時有効ナラス

二、国情ヲ異ニスルモノニ對スル一般的保障ハ的確ヲ欠ク而シテ的確ナラサル保障ヲ以テ確實ナル軍備縮減ヲ要求スルハ穩當ナラス

三、一般條約ノ与フル經濟的援助ハ戰争ノ初期ニ到来セス從ツテ長期戰トナル一般條約ノ与フル財政援助ハ其分量明確ナラサルヲ以テ之ニ比例シテ軍備縮減ヲ行フ能バス

四、連盟機關ハ組織上能力ノ發動遲シ故ニ援助ノ効果的ナラス

第四章ハ特別條約及地方的協定ヲ論ス
要旨

一、特別條約ニテハ情況限定セラレ予測容易ナルカ故ニ援助ノ計画実施容易ニシテ的確ナルヲ得互ニ援助ノ分量ヲ正確ニ計量シ得

二、援助ノ分量ヲ計量シ平時計画ノ基礎タラシムルヲ得

ルカ故ニ援助ニ相當スル大軍備ヲ縮減スルヲ得
三、情況ノ予測容易ニシテ準備的確ナルヲ得ヘン實際侵略ノ起リタル場合ニハ平時準備セル計画ヲ其儘實施スレハ可ナリ又單ニ侵略ノ脅威ヲ受ケタル場合ニ於テハ締約国ハ之ニ応スル為談合ノ上处置ヲ決スル余裕アリ

四、締約国ハ仮想敵國ノ財政經濟等潛勢力ヲ標準トシ相互援助ノ義務ヲ負フモノナリ而シテ締約国ノ受クル財政經濟上ノ負担ヲ輕減スル為是等ノ援助ハ一般的ナルヲ有利トスルカ故ニ特別條約ハ此点ニ關シ連盟規約中ニアル一般的條約ト結ヒ付クルヲ可トス

五、特別條約ヲ一般ニ解放スル場合ニ於テハ本来ノ締約國全部ノ同意ヲ必要トス

地方的條約ニ関シテハ單ニ學理的研究ニ於テ特別條約ニ異ナル所ナシト論シアリ

次ニ特別條約ニ関シ仏白伯委員ト所見ヲ異ニスル瑞典委員ノ所見ヲ掲ク其ノ要旨

保障條約ニ通有ナル困難ハ一般條約ヨリモ特別條約ニ於テ稍々少シ特別條約ニ關スル學理的研究ハ種々ノ問題ヲ提起スルカ故ニ困難ナリ是等ノ問題ハ政治的考慮ノ影響

ヲ受クルカ故ニ瑞典委員ハ之ヲ審議スルノ權能ナシ唯瑞典委員ハ特別條約主義ハ其ノ性質上世界各國ガ數多ノ集團ヲ組織スルコトトナリ却テ戰爭ニ導キ得ルモノナルコトヲ指摘ス

次ニ仏白伯委員所見ノ決論トシテ前段ノ所論ヲ簡約セルモノヲ掲ケ更ニ其末尾ニ左記要旨ノ決論アリ

戰爭防止ノ見地ヨリ觀ルモ將又軍備競爭防止ノ點ヨリ見ルモ一般的條約ハ所期ノ目的ニ副ハス一般的の條約ノ与フル如キ援助ニ比例シテ軍備縮減ハ不可能ナリ其援助ハ初期ニ於テ効果充分ナラス之ガ繼續ハ偶々長期戰ニ転移スルモノナリ此大ナル欠点ハ一般條約ヲ變シテ一ノ仮定ニ立脚スル的確ナル特別條約トナスコトニ依リテノミ補足スルヲ得一般條約ハ最終ノ勝利ヲ望ミ得ルモ一國ノ蒙ル侵襲ト其結果ヲ保護スル能ハス特別條約ハ此目的ニ合ス又特別條約ハ一般的義務ヲ除外スルモノニアラス是等ノ義務ハ既ニ連盟規約中ニ包含セラルモノナリ連盟規約ニアル一般援助（財政經濟ヲ云フ）ノ利益ヲ受ケンカ為

現行規約ニテ満足スヘキカ或ハ特殊條約ヲ以テ一般援助ニ関スル事項ノミヲ一層明確ニナスヘキヤハ軍事専門ノ

（別電一）

五月二日在パリ海陸空軍三代表翁海陸外三大臣宛電報連軍第二二号

スペイン、イタリア兩國委員覺書要旨

連軍第二二号 （五月三日海軍省着）

西班牙、伊太利委員覺書ハ四國委員覺書ニ對シ作製セシモノニシテ要旨左ノ如シ

西伊委員ハ所見全然一致シ日本委員ハ主義ニ於テ賛成ス

一、相互保障條約ニ必要条件

條約ハ侵略ヲ受クル危險ヲ最少ニ減シ侵略者ニ勝利ノ機会ヲ与ヘサルニアリ此種條約ニ依リ一國ガ侵略ヲ蒙ラサ

ルコトノ確実ヲ望ムハ不可能ナリ實行可能ノ見地ヨリ考

慮スレハ保障条約ハ戰爭期間ヲ最短ニナシ得レハ足レリ

之ガ為被侵略國ニ對シ陸海空軍及財政經濟各方面ニ亘リ

即時且有効ナル援助ヲ與フル取極ヲ必要トシ是等ノ援助

ハ軍備縮減ノ標準トナルモノナリ保障条約ニ加入スル國

ハ即時援助ヲ與フルノ準備アルヲ要ス此点ニ関シ時世ノ

推移ニ応シ條約ハ時々改定ノ必要アルト同時ニ各國ガ其

義務ヲ充足スルヤ否ヤノ保障ヲ得ル必要アリ保障ヲ得ン

ガ為ニハ監視ヲ必要トスルモ一國ノ主權ニ立入りテ監視

ヲ行フハ不可能ニシテ仮令之ヲ行ヒ得ルトシテモ効果極

メテ疑ハシキカ故ニ此点ハ連盟規約第八条ニ信頼スルノ

外ナク信用ヲ基礎トスル組織ノ効果ニ闕スル判断ハ政治

家ニ俟ツノ外ナシ

二、一般条約ハ精神的効果大ナリ加盟国多数ナルガ故ニ自

ラ侵略者トナルモノハ対抗スヘキ國ノ多数ナルヲ知ルヘ

シ之ニ反シ特別条約ニテハ侵略者ハ該条約ニ加盟セサル

モノヲ自己ノ味方ニ算入スルヲ得ヘシ故ニ一般条約ハ軍

備縮減ヲ期待シ得ル唯一ノモノナリ特別条約ハ該条約ニ

加盟セサル國ニ對スル顧慮上優勢ナル軍備ヲ必要トスル

コトアルヘシ

口、凡テノ保障条約ニ伴フ欠点ハ特別条約ニ於テ却テ顯著ナル場合アリ瑞典委員ノ意見之ニ同シ

ハ、一般条約ノ与フル援助ハ同条約中ニ包含シ得ヘキ補足協定ヲ以テ特殊ノ義務ヲ付加シ得ヘキヲ以テ特別条約ノ

場合ト同様其援助ハ有効ナリ

三、結論

吾人ノ考慮スヘキハ一般条約ノミニシテ參加國ノ多数ナルニ從ヒ成功ノ望多シ總會決議十四ニ於テモ普遍的ノ必

要ナルヲ表明シアリ

三、結論

吾人ノ考慮スヘキハ一般条約ノミニシテ參加國ノ多数ナルニ從ヒ成功ノ望多シ總會決議十四ニ於テモ普遍的ノ必

要ナルヲ表明シアリ

二九〇 五月四日

長尾陸軍少將ヨリ
白川陸軍次官宛(電報)

セシル案ニ對スル陸軍部会ノ折衷案ニツキ

軍ノ方針決定方要望ノ件

付記 右ニ對スル陸軍側回答案

国連陸一三 (五月五日接受)

「ロバート・セシル」案ニ對スル陸軍部会ノ討議ハ専ラ同案力總會決議第十四、第十五条ノ要求ニ副ヘルヤ否ヤニ就

キ研究セリ其結果次ノ結論ニ達ス

一、被侵略國ハ其ノ受クヘキ援助ノ数量、援助國、援助義務ニ圧制ノ条件ヲ知ル能ハス故ニ本保証ハ直接有効ナラス從テ軍備縮小ノ基礎トナラス

二、本案ハ一般条約ト付加条約ト組合セルモノナルモ軍縮案二ノ程度ニ比例セシムコトナク天引式ノ兵力一覽表ヲ以テ各国ノ兵力ヲ定メントスルハ決議ノ趣旨ニ反スルノミナラス直接有効且既定計画ニ基ク援助ハ唯其ノ付加条約即チ特別条約ノ性質ヲ有スルモノニ依リ僅カニ其一部ヲ達成シ得ルノミト述ヘ次ニ以上ノ件ヲ除キ一般條約ニ特別条約ヲ組合ス考案ハ巧妙ナリ此ノ主義ニ依リ現代戦争ノ要求ニ合スル援助ヲ期シ得ヘント結ヘリ

三、英國委員ハ連軍第二十ノ如ク条約形式ノ一般討議ニ參

与セサリシモ陸軍部会ニ於テハ其準備セル研究軍事錄ヲ讀ミ上ケタリ其趣旨從來ノ主張ニ反シ一般条約ノミノ不利益ヲ多數列ヘ特別条約ニ依リ之ヲ補フノ必要ヲ力説シ結論トシテ一般条約ヲ基礎トシ之ニ特別条約ヲ配合スル折衷案ヲ可トスルト述ヘタリ他國委員概ネ之ニ同意シ部会

保統案之ノ趣旨ニテ調製セラレタリ從テ特別条約ノ価値ヲ過大ニ述フルノ嫌アルモ小官ハ(一)、大体ニ於テ「セシ

(付記)

陸軍側回答案

國連陸第一三号返

一般条約ニ特別条約ヲ配合スル案ハ条約成立ノ速進的見地ヨリセハ歐州ノ如キ世界ノ部局ニ於テハ実行容易ノ可能性

ヲ有スト雖理論的見地ヨリセハ瑞典委員所陳ノ如ク世界ノ

各国力數多ノ集団ヲ組織スルコトトナリ戰爭ニ於ケル同盟

対抗ノ状勢ヲ馴致シ反テ戰爭誘発ノ動機ヲ作成スルノ惧ア

リ海軍代表六月十三日発第九十六番電ノ仏國案（ルカン

案）ハ特ニ此顧慮大ナリト認ム故ニ帝國陸軍ハ連盟ノ本義ニ鑑ミ以上ノ如キ危險ヲ包藏スルノ虞無キ參加国多數ナル

一般條約主義ニ賛成スルモノナリ然レトモ若シ會議ノ形勢

一般特別兩條約配合案ニ傾ク時ハ帝國力強大ナル連盟非加

入国間ニ介在シ且比隣國ノ形勢歐州諸國ト全ク異ナレル特

種ノ地位ニ在ルニ鑑ミ贊否ヲ保留スルト共ニ爾余ノ配合案

ノ可否ニ関シテハ條約案文ヲ見タル後ニ非サレハ意見ヲ陳

ヘ難キコトヲ以テセラルヘシ

（欄外註記）海軍代表六月十三日発第九十六番電仏國案到着ニ付

先刻差上置候國連陸第十三号返ハ本案ト取交ヘ相成
度候

山下少佐

二九一 五月四日 在（パリ清河海軍少將ヨリ

加藤海軍大臣宛（電報）

二九二 五月五日 在（パリ清河海軍少將ヨリ

第十回常設軍事諮詢委員会ニ於ケル感想報告

ノ件

第九〇番電

（五月六日接受）

混成委員会ニ参列スル軍事委員ノ資格ニ関ス

（五月五日海軍省着）

第八九番電

混成委員会ニ参列スル軍事委員ノ資格ニ就テハ從來懸案タ

リシ處四月開催ノ理事会ニ於テ軍事委員会ヨリ選出サレタル委員ハ全然個人的資格ニ於テ混成委員会ニ出席スルモノ

ニシテ軍事委員会ヲ代表スルモノニアラスト決議セリ尚決議ノ説明中混成委員会ニ於ケル常設委員会委員ノ所見ハ何

等政府所見ヲ代表スルモノニアラス全然自由ナル旨記載シアリ

小官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

ル官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

小官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

小官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

小官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

小官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

小官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

小官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

小官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

小官五月十四日ヨリ開催ノ混成委員会特別分科会ニ参列スルニ付テハ勿論當局ノ御趣旨ヲ体シ討議ニ加ハルヘキモ右為念報告ス

今回ノ會議ハ二月中第六回混成委員会ニ於テ「セシル」ガ

相互保障ニ關スル具体的の條約案ノ提出ニ発端シ之ガ議決ヲ

促進セシニ對シ仏ハ之ヲ避クト共ニ一般的の條約ヲ排シ特

別條約ニ引着ケントスル底意ヲ以テ理論的ニ之ガ根拠ヲ得

ルヲ目的トシ軍事専門事項ヲ連盟ノ専門機關タル常設委員

会ヲシテ先議セシムヘシト提議シ今回會議ノ開催ヲ見ルニ

至リシモノナリ仏ハ爾來海陸外務省會議ヲ開キ噂ニ依レバ

二ヶ月ヲ要セリト云フ長編ノモノニシテ理論的ニ特別條約

ノ利ヲ並ヘ立テタル原案（小官ハ牽強村委会ノ議論ナリト存

ス）ヲ作製シ之ヲ比較的仏ノ勢力多キ常設委員会ニ付シテ

通過ヲ計リ政府側代表機關ノ權威有ル専門的研究ノ結果ナ

リトシ次回混成委員会ニ臨ミ「セ」案ヲ打破セントスル策

案アリシモノナリ故ニ議題ノ選択ニ於テモ英ガ具体的な案タル「セ」案ヲ議セント云フニ對シ仏ハ総会決議十四ノ原則ノ研究ヲ先ニシ具体的な案タル「セ」案ノ審議ヲ後ニセント反対セリ

斯くて委員会ハ英委員原則研究ノ政府訓令ナキ故ヲ以テ討議ニ加ハラサルヲ顧ミス仏議長指導ノ下ニ仏原案ヲ審議セシカ原則専門ニ「セ」案ヲ論スル段トナリ仏議長ハ「セ」

右何等御参考迄

二九三 五月十四日 在ベルギー国安達大臣宛(電報)

本多大使出張中松田公使ヲ混成委員会ニ出席

取計ヒ方請訓ノ件

(五月十五日接受)

第九四号

六月四日寿府ニ開催ノ軍縮混成委員会ニハ本多委員大使トシテ土耳古ニ出張ノ為出席致サレ難ク且同委員ヨリ代理出席者通告ノ必要アル趣ニテ本使迄右至急推薦方申越ノ次第アリ松田公使ハ石井大使帰任前ニテ館務ノ都合上幾分懸念アル模様ナルモ同委員会ノ重大ナル性質ニ鑑ミ同公使ニ於テ今回ノ委員会ニ出張アル様御取計ヲ請フ

仏、奥地へ転電セリ

二九四

五月十七日 在ベルギー国安達大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

次回委員会ニ松田公使ノ出席方重ネテ稟請ノ

件

第九七号

(五月十八日接受)

往電第九四号ニ関シ

其ノ後ノ情報ニ依レハ次回委員会ニ於テハ愈々英仏両国案

ニ同意シ從来「セ」ト協調シ來レル仏勞働代表委員迄モ之ニ賛成セリ他方小官及伊国委員ハ特別條約ヲ排スル方針ヲ採レルカ故議論纏マラス各条項ニ就キ出来得ル丈ケ

修正ヲ加ヘシカ結局重要条項ハ皆留保付トナリ
(一)小官ハ訓令ノ趣旨ヲ体シ議論トシテハ特別條約ハ普遍的ナラス國際連盟ノ根本義ニ反ストノ理由ニテ特別條約ニ
関スル条項ニハ一般的の留保ヲナシ又重大ナル軍事条項ニ
対シテハ現在ノ案ニテハ専門的見地ヨリ條約ノ運用困難ナリトノ理由ニテ留保セリ

(二)各条一般審議ヲ終リ混成委員会ニ提出ノ報告案作製ノ段トナリ仏ハ同案ヲ再ヒ總会ニ議シ抬頭セシメサル底意ヲ以テ本案推薦反対ノ態度ヲ取リシ為議論紛糾シ結局委員会トシテハ結論ヲ付セス新修正條約案ノ終尾ニ各委員個々ノ所見ヲ付記シ提出ノコトニ落着ケリ

小官ハ訓令ノ主旨ニ鑑ミ此際英仏何レニモ偏セス純理論

一点張ニテ進ムノ有利ナルコト及次回會議ニ於テ我政治家代表ノ議論ヲ拘束セサルコトヲ考慮シ日本委員トシテ左記要旨ノ所見ヲ提出セリ

イ、修正條約案ハ総会決議十四ノ条件ヲ完全ニ充足セサ

ノ討議ヲ見ルコトナルヘク至極重要ナルヘキニ付此際都合モアルヘキモ松田公使ノ出張アル様特ニ御詮議相成度重ネテ稟請ス 仏奥地へ転電セリ

二九五 五月二十三日(着) 在ロンドン清河海軍少将ヨリ
混成委員会特別分科会ニ於ケル相互保障条約

案ノ逐条審議概況報告ノ件

第九三番電

混成委員会特別分科会五月十四日ヨリ開会
「セシル」卿ヲ議長トシ相互保障条約案ヲ逐条審議本議事

四日間ニテ結了概況左ノ如シ

(一)「セ」ハ特ニ軍事ニ関スル条項ニ就テハ軍事委員会ト衝突回避ノ方針ヲ取り例ヘハ第十六条兵力派出ノ条項ノ如キハ極メテ概括的ノモノニ全然修正シ案ノ通過ヲ計リシガ國際政策ニ影響シ政治的意義重大ナル特別條約或ハ一般條約ニ關スル条項ニ就テハ委員間ニ異論多ク仏委員ハ本條約ニテハ保障充分ナラス從ツテ軍備縮小ノ目的ニ適セスト称シ第一条第二条ニ於テ根本的反対説ヲ唱ヘツツ一方特別條約ニ強味ヲ置カントスル態度ヲ採リ白委員之

ス

二九六 五月二十六日 在ジュネーヴ安保海軍中将ヨリ
内田外務大臣宛

國際連盟軍備關係諸問題ノ現状報告書送付ノ件

一、國際連盟ニ於ケル軍備關係諸問題ノ現状

右及報告候也

大正十二年五月二十六日

國際連盟陸海空軍問題常設諮詢委員会ニ於ケ
ル帝國海軍代表者

外務大臣伯爵 内田康哉殿

大正十二年五月

國際連盟ニ於ケル軍備關係諸問題ノ現状
國際連盟陸海空軍問題常設諮詢委員会ニ於ケ
ル帝國海軍代表者

海軍中將男爵 安保清種

本官ハ大正十一年五月國際連盟陸海空軍問題常設諮詢委員会ニ於ケル帝國海軍代表者被仰付同八月巴里ニ着任シ本年三月帰朝ヲ命セラレ四月相互保障條約案カ常設諮詢委員会ニ付議セラレツツアルトキ巴里ヲ発シ経米帰朝ノ途ニ就ケリ在仏八ヶ月ノ間常設諮詢委員会會議ニ列スルコト二回臨時混成委員会會議ニ列スルコト一回此等諸會議ノ状況ハ其ノ都度之ヲ報告セシカ茲ニ常設諮詢委員会ヲ去ルニ莅ミ右ノ両委員会ニ付議セラレ若ハ從来ヨリ連盟ノ懸案トナリ居

レル左記軍備關係諸問題ノ現状ヲ略叙シ以テ本官遣外ノ任務報告ニ代ヘントス

一、華府海軍條約ノ原則ヲ加盟国以外ニ普及セシムル件
華府海軍協定ノ成立カ國際連盟ニ多大ノ刺戟ヲ与ヘタルハ論ヲ須ヒ斯該協定ノ主義ニ基キ他ノ連盟国ノ海軍ヲ縮減スヘシトノ議昨年三月混成委員会ニ提出セラレ英仏伊三国委員ハ夫々海軍縮減案ヲ提示セリ昨年七月常設諮詢委員会海軍部会ハ右ノ三案ヲ審議シテ海軍縮減條約案ヲ作成シ更ニ混成委員会ニ於テ新條約加入国ノ範囲ヲ拡大シ華府條約ニ加盟シアラサル世界万国トスルコトニ修正シ而シテ第三回連盟総会ハ混成委員会ノ建議ニ聽キテ

(1)華府海軍條約ノ原則ヲ世界ニ普及セシムル目的ヲ以テ出来得ル限り速ニ國際會議ヲ招集スヘキコト

(2)常設諮詢委員会作成ノ海軍條約案ヲ速ニ各國政府ニ送付シ其ノ考慮ニ付スヘキコト

ノ二件ヲ理事会ニ勧告セリ
現ニ各國政府ノ考慮ニ付セラレ居レル海軍條約案ハ一九二一年十一月十二日ニ於ケル各國現有海軍力保持ト海軍休戦トノ二原則ニ基キ且出来得ル限り華府海軍條約ノ章程ヲ踏

襲セルモノナリ新條約ノ拘束ヲ受クヘキ諸國ノ中ニハ現有

海軍力ヲ標準トシテ将来ノ比率ヲ律セラルヲ好マサルモノアリ連盟規約第八条ニ掲ケタル國家ノ安全保障ヲ楯ニ取

リ此ノ原則ヲ主トスヘキヲ論シテ海軍部会ヲ始メ爾後ノ諸審議ニ際シ前記二原則ニ相當強硬ニ反対セシカ總会決議ニハ特ニ

各国特殊ノ事情ニ對シテハ該國際會議ニ於テ当然ナル考

慮ヲ加ヘラルヘキコト勿論ナリ

トノ条件ヲ付シ漸ク全会ノ一致ヲ見タル次第ニテ又右ノ勅告ニ接セル理事会ハ本年二月ノ会合ニ於テ該國際會議招集

ノ時機ハ「サンチャゴ」汎米會議閉会後決定スヘキ旨議決セリ「ワルソー」會議「サンチャゴ」會議ニ於ケル軍備縮減問題討議ノ経過ニ鑑ミルモ右國際會議ノ成功ニ對シテハ将来尚種々ノ困難横ハレルヲ想ハスンハアラス尚理事会ハ該海軍會議ノ招請國ヲ連盟國ニ止ムル意向ニテ非連盟國ヲ召集スルコトヲ留保シツツアルカ混成委員会ハ依然万国会議ヲ主張シ之ニ関シ理事会ノ再考ヲ希望スル旨決議セリ

二、陸軍縮減ニ關スル「エッシャー」卿提案

昨年三月「エッシャー」卿ハ

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 二九六

(1)平時陸軍力ノ縮減ハ兵數ヲ基礎トスヘキコト
(2)華府協定ニ準ヒ列國陸軍力ノ間ニ一定ノ比率ヲ定ムルコト

ノ二方針ニ基ケル歐州陸軍縮限案ヲ混成委員会ニ提出シ同会特別小委員会ハ之ヲ審議シ大体ニ於テ其ノ主義ニ同意セルモ実行案トシテハ尙頗ル不完全ナルモノト議決セリ「エッシャー」案ハ斯クテ其ノ終リヲ告ケタルモ其ノ研究ハ決シテ無益ナラサリキ即陸軍縮減ハ平時兵力ニ對シテ行フノ外ナキコト明白トナリ又陸軍力測定比較ノ単位及比率決定等ノ研究ヲ誘導セリ

陸軍力比較單位トシテ「エッシャー」案ハ戰鬪員三万人ヲ採レリ之ニ對シテハ現代ノ國民戦争ニ於テハ兵數ハ兵力ノ一因子ニ過キストノ反対論出テ混成委員会ハ終ニ本問題ノ専門的研究ヲ常設諮詢委員会ニ依嘱シ而シテ昨年九月後者ハ左記要旨ノ回答ヲナセリ

(1)陸軍ノ見地ヨリスルモノ
現下ノ状況ニ於テハ標準單位ノ設定不可能ナリ平時ニ於ケル兵力ノ評価ハ専門家ノ研究ニ依テ達成セラルル
モ数的ニ之ヲ算定シ得ス

(d) 空軍ノ見地ヨリスルモノ

a 空気ヨリ重キモノ

現在ニ於テハ各国ノ空軍兵力ニ対スル共通標準単位

ヲ発見スルコト不可能ナリ

b 空気ヨリ軽キモノ

航空船ノ隻数ヲ以テ標準単位トナスコトヲ得

(e) 海軍ノ見地ヨリスルモノ

同一型ノ単位ノ排水量及隻数ヲ比較単位トスルコトヲ得

比率決定ニ於テ「エッシャー」案ノ採用係数ハ何等ノ根拠ナキ独断ナリトテ特別小委員会全員之ヲ否認セリ而シテ

同委員会ニ於ケル軍事専門委員(日、伊、仏)ハ共ニ各国ヲシテ其ノ必要トル兵力及其ノ理由ヲ陳述セシメ之ヲ以テ制限ノ根拠トナスヲ至当トル旨ヲ主張セルニ対シ「セシル」卿ハ各国ノ要求ハ固ヨリ制限計画上顧慮スヘキ有力ナル因子ナルモ總テノ基礎ヲ各国要求ノ上ニ置カサルヘカラストスル議論ニハ同意スル能ハスト説キ反復論議セル後大体軍事専門委員ノ説ヲ採用スルニ決定セリ

兵力比較標準単位及比率決定ハ軍備縮減ノ実行上重要ナル

事項ナリ然レトモ两者ハ手段ニシテ目的ニアラス「ロバートセシル」卿カ両問題ノ解決困難ナルノ故ヲ以テ軍備縮減ヲ遲延セシムル理由ナント喝破セルハ當ニ其所ニシテ純理的ニ之ヲ算定シ得ストセハ実行可能ナル近似值ヲ以テ満足スル外ナシ從テ軍備縮減ノ氣運真ニ醸成セラルニ至ラハ兵數及軍事予算ノ兩者ヲ兵力比較ノ単位トシ又現状維持ヲ原則トシ之ニ各国ノ特殊事情ヲ加味シテ比率ヲ決定スル等政治的協定ニ依リ専門的且純理的ナル諸種ノ困難反対ヲ排除シ以テ其ノ目的ヲ達成スルニ至ルヘキ力

三、相互保障

相互保障ノ問題ハ昨年七月「ロバートセシル」卿カ混成委員会ニ提出セル軍備縮減ノ原則ニ関スル決議案ニ由来ス該決議案ノ要旨ハ世界ノ現状ヲ以テシテハ列国ヲシテ大規模ノ軍備縮減ノ責任ヲ受諾セシムルタメニハ世界的防守協定ノ如キモノニヨリ相互ニ三国ノ安全ヲ保障スルヲ必要トスト謂フニアリタリ

第三回連盟総会ハ大体ニ於テ「セシル」ノ提案ヲ是認セリ但シ「セシル」原案カ世界的相互保障条約ニ依リ世界的軍備縮減ヲ行ハントセルニ対シ仏國ハ一般的条約ノ与フル保

障ハ余リニ漠然タリトナシ効力一層確實ナル部分的条約ヲ主張シ瑞典等「スカンヂナビヤ」ノ諸国ハ一般的防守同盟ヲ片務的ナリトシテ利害ノ関係密接ナル国々ノ地方的協定ヲ推奨セル結果総会決議ニハ相互保障ノ方法トシテハ一般的条約ト共ニ部分的条約ヲモ是認シ又地方的協定カ軍備縮減ノ良果ヲ結フコトアルコトヲ肯定シ此ノ方針ニ基キ条約案ヲ起草センコトヲ混成委員会ニ要求セリ

常設諮詢委員会ハ相互保障ノ原則ヲ適用スルコトノ能否ヲ純然タル軍事上ノ見地ヨリ研究スル目的ヲ以テ昨年十二月「ゼネヴ」ニ会合セシカ元來問題ノ性質上政治的見地ヲ全然離レテ考察スルコト不可能ナルヲ以テ決定的意見ヲ纏メシコトハ当初ヨリ予期セルモノナク各國委員個人的意見ノ交換ニ止マリ次回會議ニ研究ヲ繼續スルコトナレリ討議ノ狀況ヲ概観シテ特ニ目ニ映シタルハ仏國委員カ自國ノ立場ト恐ラクハ政府ノ方針トニ基キ極力一般条約ヲ排シテ特別條約ノ利益ヲ主張セルニ対シ英國委員カ政府ノ意図ヲ承知シアラサルヲ理由トシテ具体的意見ヲ發表スルヲ拒絶シツツ而モ終始之ニ反対ノ能度ヲ執リタルコト是ナリ

本年二月混成委員会ニハ「ロバートセシル」卿ノ作成セル

「サンゼルマン」協約ノ批准勧誘ト兵器問題國際會議ノ召集準備トハ本件ニ関シ從来連盟ノ採リ來レル方針ナリ前者ニ対スル各國政府ノ回答ハ殆ト千遍一律ニシテ他ノ強國全部カ批准セハ自國モ批准スヘント云フニアリシカ昨年七月

中米國政府ハ同協約ヲ批准シ能ハサル旨通告セル為問題ニ一展開ヲ來セリ即「サンゼルマン」協約ハ現在ノ形式ノ儘ニテハ主ナル強國ノ批准ヲ得ル望ナキニ至リシヲ以テ第三回総会ハ米國ノ加入シ得ル如キ新ナル兵器通商取締協約案ヲ起草センコトヲ混成委員会ニ要求セリ

一方國際會議召集ノ準備ニ関シテハ其ノ委任ヲ受ケタル混成委員会ハ同會議ニ於ケル討議ノ基礎トスルタメ「サー・ハーバートスマス」ノ提議セル兵器民営取締協約案ヲ採用シ

尚第三回総会ニ建議シ總会決議ニテ國際會議召集ノ時機ノ適否如何ヲ考慮センコトヲ理事会ニ要請セシカ理事会ハ本年二月ノ會議ニ於テ之ニ対シ目下其ノ時機ニ非ス寧ロ政治上ノ手段ニヨリ軍備縮減ノ大問題解決ニ全力ヲ傾注スルヲ賢明ナリトスト決議セリ「スマス」氏ノ協約案ハ國家ノ下付スル特許状ニヨリ取締ヲ行フ主義ニ基キ起草セラレタルモノニシテ協約案起草ヲ委任セラレタル混成委員会カ第三回総会ニ報告スル必要上責塞キ的ニ之ヲ採用セルモノトモ見ルヘク之ヲ以テ直チニ國際會議原案トスルニハ尚不完全ナルヘシ

第一回総会以来ノ懸案タル本問題ノ現状此ノ如シ其ノ進捗

因ニ毒瓦斯戰時使用ニ關スル華府條約ヲ連盟國ニ普及スル問題ハ該條約調印國カ批准ヲ終ラストノ理由ノ下ニ混成委員会ハ何等決定ヲ与ヘサリシカ海軍縮減條約案起草ニ当レル常設諮詢委員會海軍部会ハ「海軍軍備ニ關スル國際會議ニ参列スル各國代表ニハ華府ニ於テ調印セラレタル中立國民及非戰鬪員ノ生命保護ニ關スル條約ニ加盟スルニ必要ナル權限ヲ賦与スヘキヲ連盟國ニ勸告センコト」ヲ理事会ニ建議シ又第三回連盟総会ハ左ノ決議ヲナセリ
総会ハ連盟國並他ノ諸國カ毒瓦斯並潛水艦ノ戰時使用ニ關スル華府條約（一九二二年二月六日）ニ加盟スル様勸誘センコトヲ理事会ニ要請ス
右ニ対シテ理事会ハ「サンチャゴ」汎米會議後召集スヘキ海軍問題國際會議ノ議題ニ毒瓦斯及潛水艦使用制限ノ問題ヲ加フルコトトセリ

六、軍事費予算制限

第一回及第二回連盟総会ハ各次ノ二年間ノ軍事費ヲ一九二一年度以上ニ増額セサル様連盟諸國ニ勸奨スル決議ヲナシ理事会之ヲ採用シ事務總長ヲシテ右総会ノ希望ニ対スル各國政府ノ意向ヲ質サシメタリ而シテ回答ヲ致セルモノノ内

ノ遲タルハ主トシテ大生產國タル米國カ連盟ノ圈外ニ立テルニ由ル最近理事会ハ混成委員会ノ意見ニ從ヒ兵器民営及通商ノ取締ニ関シ大体如何ナル主義ニテ他國ト協商セント欲スルヤニ関シ具体的陳述ヲ与ヘンコトヲ合衆國政府ニ要請セリ米國政府ノ回答如何ニ依リテハ本問題ハ意外ノ進展ヲナス望ナキニシモアラス

五、化学戦

第二回連盟総会ハ次ノ決議ヲナセリ

混成委員会ヲシテ常設諮詢委員會ト協議シ将来ノ戰争ニ於テ毒瓦斯又ハ其ノ類似物ノ使用セラルコトヲ減スルカ為メ之ニ関スル發明ノ結果ヲ公表センコトヲ全世界ノ学者ニ希望スルノ要否ヲ研究セシム
混成委員会ハ之ヲ審議シ如何ニセハ学者ノ協力ヲ得ヘキカ昨年八月「ゼネヴ」ニ会合セル智的協同委員会ニ問ヒシカ後者ハ之ニ対シ單簡直截ニ此ノ如キ手段ヲ提議シ得サル旨回答セリ依テ混成委員会ハ学者ニ發明ノ公表ヲ要求スルモ無益ナリト決シ新ニ毒瓦斯問題調査小委員会ヲ組織シ化學戰ノ慘禍恐ルヘキアルヲ世界ニ宣伝スル目的ヲ以テ調査及情報蒐集ヲ行フコトトセリ

正面ヨリ右ノ勸告ヲ受諾シ得ストセルハ比較的小數ニシテ且各國ノ軍事費ハ物価低落ト復員ニ伴フ軍備整理ノ自然的結果トシテ一般ニ收縮シツツアルヲ以テ此ノ勸告ヲ繰返ヘスノ必要ナカルヘシト認メラレシカ第三回総会ハ仏國ノ主動ノ下ニ「一九一三年度軍事費ニ復帰勸告」ノ決議ヲナセリ
元來本問題ハ平和理想論者ヲ満足セシムル一作業ニ過キシテ第三回総会ニ於ケル仏國ノ提議ハ動モスレハ軍國主義ノ非難ヲ受ケントスル仏國カ幸ヒ自國現在ノ軍事費ハ一九一三年度以下ナルヲ利用シ自家弁護ヲナセル政治的方策ニ外ナラス果然混成委員会ハ本年二月ノ会合ニ於テ一九一三年ノ如キ不安ノ時機ニ於ケル軍費ハ漸進的軍備縮減ヲ目的トスル連盟カ標準トシテ採用スルニ不適當ナリト認メ暫ク右ノ勸告ノ發送ヲ見合ハサンコトヲ理事会ニ懲憲セリ

七、統計調査

第二回連盟総会ハ混成委員会ノ提議ヲ採用シ各國現在ノ武力ヲ確知スルハ軍備制限ニ關スル予備条件ノ一ナルヲ以テ軍備ノ狀態ヲ明カニスヘキ統計調査ヲナスヘキコトヲ決議シ之ニ基キ混成委員会統計分科会ハ事務局ト協力シ先ソ官

刊書其ノ他公報的材料ニ依ル統計調査ヲ開始シ昨年九月其ノ第一次調査ノ結果ヲ第三回総会ニ提出セリ該報告書ハ頗

ル浩瀚ナルモ其ノ統計ノ大部ハ軍備ノ間接的諸因素ニ属シサリシヲ以テ總会ハ之カ採用ヲ留保シ来ルヘキ年度ニ於テ

ハ調査範囲ヲ平時軍備及軍事費ノ二項ニ限り又軍事専門事

項ニ関シテハ常設諮詢委員会ハ混成委員会ニ協力スヘキコトヲ決議セリ元來調査範囲ハ各國軍事上ノ全勢力ニ及ホスヲ要シ之カ為ニハ

1 各國ノ現ニ有スル勢力（平時軍備及軍事費ニ依テ之ヲ表ハスコトヲ得）

2 軍事潜勢力（主トシテ各國ノ工業及經濟的能力）

ヲ調査スルノ要アルコト總会ノ認ムル所ナリシモ先ツ順序トシテ直接必要ニシテ且實行可能ナル第一項ノミニ止メントスル主旨ニテ上述ノ如ク決議セル次第ナリ

右總会ノ決議ニ基キ常設諮詢委員会ハ調査事項ヲ研究シ連盟加入國ニ送付スル目的ヲ以テ陸海空軍兵力及兵役制度ニ關スル平時軍備統計表ヲ作成シ一方混成委員會統計分科会ハ事務局ト協同シ各國ノ歲計及軍事予算ノ分解研究ヲ繼續

シツツアリ

八、国防ニ関スル各國政府ノ陳述
連盟規約第八条第一第二項ニハ

連盟加入國ハ平和維持ノ為ニハ國家ノ安全及國際義務ノ履行ニ必要ナル最小限度マテ各國軍備ヲ縮小スル要アルヲ認ム

理事会ハ各國政府ノ審議決定ニ供スル為メ各國ノ地理的位置及特種条件ヲ考慮シテ軍備縮小ノ計画ヲ準備スヘント定メタリ此ノ考察ニ基キ第二回連盟總会ハ各國政府ニ要請スルニ其ノ國家ノ安全、國際義務、地理的位置並特殊条件ノ要求ニ関シ必要ト認ムル意見ヲ開陳セントヲ以テスルニ決セリ

爾來今日迄ニ連盟ノ要請ニ応シテ回答ヲ致セルモノ約三十ヶ國ナルカ各國政府ノ回答ニ精粗ノ差違著シク比較対照容易ナラス諸國中仏英伊三国ハ相當眞面目ナル陳述ヲナセルカ而モ各自ノ目的トスル所ニ好都合ナル如ク記述セルノ感ナキ能ハス其ノ他ノ諸國ニ至リテハ事實上価値アル陳述ヲナセルモノナシ之レーツニハ連盟ヨリ發セル質問其ノ者カ漠然トシテ一定ノ準拠ヲ示ササリシニモ因ルヘシ依テ混成

委員会ハ目下此等各國ノ回答ヲ視閲ニ便ナル比較表ニ編シ之ヲ連盟國政府ニ送付シ未回答國並陳述不完全ナル諸國ノ注意ヲ喚起セント企テツツアリ

九、軍事情報交換

本問題モ亦連盟規約第八条（末項）ニ由來シ常設諮詢委員会ハ疾クヨリ之ヲ研究シ其ノ第三回会合ニ於テ軍備情報通報様式ヲ決定セシカ通報事項中機密ニ涉ルモノアルヲ以テ直チニ之ニ基キ列国政府ノ通報ヲ要求スルハ過早ナリト認

メ其ノ時機ハ理事会ノ選択ニ委スルコトトナリ次テ混成委員会ニ於ケル統計調査ニ於テモ動員ニ関スル項目ハ差シ当リ之ヲ避ケ先ツ公刊セラレタル文書ニヨリテ資料ヲ蒐集シ要スレハ右通報様式ヲ各國ニ送付シテ調査ヲ完結スヘク之カ実行ハ理事会ノ指揮ニ俟ツコトニ決セリ

爾來混成委員会及連盟總会ハ屢々理事会ヲ促ン規約第八条ノ軍事情報交換ノ時機到来セサルヤヲ考慮センコトヲ求メツツアルモ理事会ハ毎ニ之ニ対シ時機尚早ナリト決議シツツアリ最近本年二月ノ會議ニ於テ混成委員会ハ規約第八条ニ考慮セル情報交換ヲ一層満足ナラシムル為執ルヘキ手段ヲ研究報告センコトヲ事務局ニ要求セリ

以上ハ國際連盟ニ於ケル軍備關係諸問題ノ現状ナリ連盟力軍備問題ノ研究審議ヲ積ムコト既ニ三歳余ナルニ比較シテ一見其ノ進捗ノ極メテ遲々タルヲ感セスンハ非スト雖仔細ニ過ぎノ経過ヲ檢スルニ時ニ一進一退アリト雖其ノ間脉脉トシテ一連向上ノ跡アルハ争フ可ラス

華府會議ノ經驗力訓フル如ク軍備縮減ハ出発ニ非スシテ到著点ナリ太平洋ニ関スル政治的協定先ツ成リテ海軍條約締結セラレタリ第三回連盟總会ハ

物質的軍備撤廃ハ先ツ精神的軍備撤廃ヲ必要トシ精神的軍備撤廃ハ國家ノ安全ト國際信賴トノ雰囲氣中ニノミ実現シ得ヘシ貿易ノ大変調並世界ニ漲レル失業及經濟的混沌ノ状態持続スル限り精神的軍備撤廃ハ之ヲ期待スヘカラス賠償及連合國戰時借款問題ノ解決ハ現状救済ノ唯一策ナリ而シテ之ヲ遂行スルニハ米國ノ協力ヲ必要トスレトモ吾人ハ其ノ來ルヲ待ツコトナク進ンテ先ツ吾人ノ最善ヲ尽ササルヘカラス

ト決議セシカ爾來不幸ニシテ狀況ハ毫モ改善セラレス却テ悪化セリ軍備縮減問題ノ前途亦遠遠ナル哉唯此間ニ於テ相互保障ノ原則決議セラレタルハ問題ノ解決ニ顯著ナル進歩

ヲ画セルモノナリ勿論本原則ノ運用実効ハ一朝一夕ニ之ヲ期スヘカラサルモ原則ノ確立ハ軍備問題ノ解決ニ正当ナル進路ヲ示セルモノニシテ且國際的安定ノ氣運ヲ促進スルモノナラスンハアラス現ニ軍備關係両委員会ノ審議シツツアル「ロバートセシル」ノ保障條約案ハ尚完全ノ域ヲ距ルコト遠ク且主義ニ於テ仏國其他ノ強硬ナル反対アリト雖中心人物タル卿ノ熱誠ト努力トハ万難ヲ排シテ歩一步其ノ成立ニ向ツテ進ムヘキ力

國際連盟ノ将来ニ関シテハ特ニ顯著ナル變化ヲ見ス米独露ノ三大國ハ依然トシテ其ノ圈外ニ立テリ此等強國ノ加盟ハ最モ希望スル所ナルモ一方上「シレシャ」問題、「アランド」島問題、「アルバニア」國境問題等ノ平和的解決、壞國ノ經濟的救済運動、國際司法裁判所ノ開設等ハ國際連盟カ現在ノ儘ニテ既ニ大ナル活力ヲ有セルコトヲ示セルモノナリ桃李言ハサルモ樹下自ラ蹊ヲナス絶対ニ連盟ノ事業ニ関与セスト標榜セル合衆國現政府モ今ヤ國際司法裁判所ニ参加セントスルノ意志ヲ公言シツツアリ要之連盟カ漸次ニ實際的國際政治上ニ重キヲ増シツツアルハ否ムヘカラサル所ニシテ此ノ傾向並連盟ノ理想トスル平和人道主義ハ責任

第九六番電 (六月十四日海軍省着)

過般混成委員会ニ於テ仏ガ「セ」ノ対案トシテ提出セル相互援助條約案ノ要訳左ノ如ク同案ハ予テ仏國主張ノ如ク相互通報特別條約ヲ可トスル主旨ヲ以テ構成セラレ條約案ヲ約言スレハ(一)相手方ノ援助保障ニ満足セサルトキハ軍備ヲ縮減セス(二)特別協約ニ加入セサル國ハ各自勝手ニ軍備ヲ縮減セヨトノコトニ帰着ス本案ハ七月五日ヨリノ軍事委員会ニ於テ先ツ審議セラルル筈今後電報ニハ本案ヲ仏國案ト云ヒ「セ」案ヲ英案ト云フ相互援助條約案

第九七番電 (六月十四日海軍省着)

(欄外註記1) 略ヲ受クル場合連盟規約第十条ニ從ヒ互ニ供与スヘキ援助処置ヲ予メ規定スル為集團ヲ創設スル協約ヲ二国又ハ數国間ニ締結スルコトヲ得

第二条 第一条所載ノ協約ヲ締結スル國ハ其協約ノ實行ヲ保障スル軍事協定ガ軍備縮減ヲ企図スルニ足ルトキ協約ノ保障ニ比例スト思考シ且實施セントスル軍備縮減

ヲ連盟理事会ニ通報ス右協約及軍備縮減案ハ一般條約ニ合併セシムルコトニ關シ審査ノ為國際連盟ニ通報セ

アル政治家ノ蔑視スヘカラサル所ナリト信スルト共ニ帝國ノ之ニ對スル準備ト覺悟トハ決シテ輕々ニ付スヘカラサルモノアルヲ感スル次第ナリ

二九七 六月十一日 在パリ清河海軍少將ヨリ

海陸軍及ビ外務大臣宛 (電報)

相互保障問題ニ關スル英仏兩案審議ノ今後ノ各委員会開催予定報告ノ件

第九五番電 (六月十二日海軍省着)

十日巴里帰着

今回會議ハ保障問題ニ關シ仏委員ヨリ対案提出アリ英仏両案共成立セス之ヲ纏ムル為先ツ次回軍事委員会ヲ七月上旬「ジュネーヴ」混成委員会特別分科会ヲ七月十六日ヨリ「ロンドン」第八回混成委員会ヲ七月三十一日ヨリ「パリ」ニ開催ノコトトナル

今回會議經過追電ス

二九八 六月十三日 在パリ清河海軍少將ヨリ

海陸軍及ビ外務大臣宛 (電報)

セシル案ノ対案トシテ仏側ノ提出セル相互援助條約案要訳報告ノ件

第九六番電 (六月十四日海軍省着)

ラルヘシ該協約ハ連盟規約第十八条ニ從ヒ登録ス

第三条 上記協約調印國ハ侵略發生ノ場合並協約ノ予見スル場合ニ於テ調印國ノ執ルヘキ処置ガ相互援助計画ノ異議並遲滯ナキ実行可能ナリト認メタルトキ前条所載ニシテ且連盟理事会ニ通報シタル軍備縮減ヲ実施ス

第四条 防守集團協約ニ規定セル侵略發生ノ場合ニハ該集團加入締約國ハ其間ニ協定セル援助計画ヲ自動的ニ發動シ其他ノ侵略發生ノ場合ハ行動ニ先立チ協議シ集團外締約國ハ第五条所載ノ場合ノ如ク連盟理事会ノ勧告援助ヲ右集團ニ提供ス

第九五番電 (六月十四日海軍省着)

第五条 集團以外ノ某締約國侵略ヲ受クル場合ニハ右被侵略國ノ執リタル防衛処置ノ合法ナルヲ承認シタル後連盟理事會ガ最モ有効ナリト推奨スル陸海空軍、經濟並財政の援助ヲ提供シ此援助ハ遲滯ナク与ヘラルコトニ關シ協定セラルヘク又侵略撃退、侵略者懲戒ノ為ノ援助ハ状況ノ緩急ニ応シ逐次供与セラルヘシ

第六条 前条规定ノ一般的援助ヲ以テ国家安全保障ニ充分ナリト思考シ防守集團ニ屬セサル締約國ハ其実施セントスル軍備縮減ヲ連盟理事会ニ通報シ之ヲ晚クモ比鄰防守

集団ト同時ニ実施スヘシ

第七条 本条約ハ千九百十九年並千九百二十年 Versailles, St. Germain, Neuilly 並 Trianon ニ於テ調印セラレタル平和条約ノ規定ニヨリ生スル権利義務ヲ何等拘束スルコトナク又前記条約若クハ協約調印国及其受惠國ノ間ニ締結セラレタリト公認サル現存協約ノ規定ニ依ル権利義務ニ就キテモ亦然リ

(欄外註記1) 地方的協定ヲ締結シ得ルコト

(欄外註記2) 軍事協定カ軍備縮小実行ニ足ル保障ヲ与フルトキ締約国ハ初メテ軍備縮小ヲ実行ス(其軍備縮小ノ程度ハ任意ニ定メ得ルモノノ如シ)

(欄外註記3) 地方的協定ノ締結セラレタル團体内ニ於テハ事変發生ノ場合直ニ保障ヲ与フルコトナルモ其他ノ國家間ニ於テハ行動ニ先ダチ協議ヲ必要トス

二九九 六月十八日 在パリ清河海軍少将ヨリ 海陸軍及ビ外務大臣宛(電報)

第七回混成委員会ニ於ケル相互保障条約案審

議ノ経過概要報告ノ件

第九七番電 (六月十九日海軍省着)

第七回混成委員会ハ從来ノ懸案ナリシ兵器民営情報交換軍

条約ヲ主張シ英ハ一般条約ヲ立前トシ特別条約ヲ包有スレハ可ナリト云ヒ何レモ從来ノ議論ヲ繰返スニ過キス唯伊ガ

一般条約ヲ主張シツモ第六回會議ニ於テ仏ト連合シ強ク英案ニ反対セシ態度稍々薄ラキタル外特報スヘキモノナシ保障条約審議ノ後「セシル」ハ英案中侵略者決定条項ガ其ノ最難関ナルヲ考慮シ二国間ニ互ニ軍隊ヲ入ルルヲ許ササル無防衛地帯ヲ設定シ此地帯内ニ軍隊ヲ入レタルモノヲ以テ侵略者トナス主旨ニテ構成セル無防衛地帯設定案覚書ナルモノヲ提出セリ(海盟第九九番電)同覚書ハ保障条約仮案ト共ニ軍事委員会ニテ先ツ議スルコトトセリ

右地帯案ハ今回初メテ頭ヲ出セシ許リニテ今日ニテハ一ノ思付ニ過キサル形ナルモ同案ノ将来ハ相互保障条約カ昨年先ツ原則ヲ可決シ次テ連盟総会決議十四トナリ本年ニ入りテ条約案トナリシト同様ノ径路ヲ採り追々ハ全部条約案トナス「セシル」ノ心算ナリト察セラル本電松田公使閱覽済

三〇〇 六月十九日 在パリ清河海軍少将ヨリ 海陸軍及ビ外務大臣宛(電報)

無防衛国境地帯設置ニ関スルセシル覚書要訳

報告ノ件

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 三〇〇

備統計問題等(是等問題審議ノ結果ハ文書報告ス)議題十

一項ヲ審議センガ最モ重要ナリシハ相互保障条約ニシテ五月英京特別分科会ニテ審議ゼシ英修正案(海盟第九三号及九八号電^(見当テ)参照)ノ全員会議ナリ経過概要左ノ如シ

仏ハ英案ノ対案ト見ルヘキモノ(海盟第六号電)ヲ提出シ伊、西モ各々英修正案ニ対スル修正案ヲ提出セリ然ルニ仏案ハ特別条約ヲ主トスル立前ニシテ一般条約ヲ主トスル英案ト根本ニ於テ差異アリ從ツテ英案ノミヲ基礎トシ決定

審議ニ入ルヲ得ス又英案トテモ留保多ク到底纏マリノ付カサル見越モアシヲ以テ今回ハ一般的討議ニ止メ未決ノ儘ニナシ置キ仏案ハ先ツ軍事委員会ノ所見ヲ求メ英修正案、伊修正案、西修正案ト共ニ混成委員会内特別分科会ニ付シ右四案ヲ纏メ一案ヲ作り来ル連盟総会前ノ混成委員会(七月三十日「パリ」)ニテ審議スルコトトセリ

右ノ次第ニテ會議ハ決定的ナルヲ得ス右一般討議モ多クハ主義論ニテ終始セリ

即チ仏委員ハ相互援助確実ナラサルモノハ保障トハナラス援助確実ノ為ニハ特別条約ヲ要スト主張シ伊委員ハ二三ノ国カ特別条約ヲ結フコトハ戰前狀態ニ逆転ナリト論シ一般

案ノ規定ニテハ侵略者タルヤ否ヤハ連盟理事会之ヲ決定スヘク他ニ推定法ナキ場合ニハ先ツ他國ノ領土ニ軍隊ヲ入レタルモノヲ以テ侵略者トナスコトトセリ

二、両国国境ニ於テ互ニ軍隊ノ派遣ヲ許ササル無防衛地帯ヲ設ケ連盟委員此ノ地域ヲ監視シ先ツ軍隊ヲ入レタルモノアルトキ連盟理事会ニ報告スルコトトセハ侵略者ノ決定容易ナルヘシ

三、連盟監督ノ下ニ無防衛地帯ヲ設定セハ之ヲ挾ム両国家ハ互ニ急襲ノ危険ニ對シ確保ヲ得ヘシ右ノ如キ地帯(脱)スクノ如キ規定ハ少クトモ侵略國ノ行動ヲ遲滞セシムルノ効果アルヘク從ツテ被侵略國ノ地位ヲ強ムルヲ得ル故混成委員会ハ此種ノ地帯設定ニ關シ研究ヲ要ス

四、左記諸項ノ一部又ハ全部ハ無防衛地帯設定協約中ニ包

A、地帯幅員ハ少クモ三十哩

B、地帯内ハ何等要塞若クハ之ニ類スル施設ヲ許サス

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 III

III

(四) 情報ノ自動的運行ヲ幾分保障スル為情報交換ニ関シ數個ノ集団ヲ編成スル事

(イ) 項ニ關シ委員会ハ事務局覺書ヲ承認スルニ決ス、即チ左ノ如シ

『年鑑刊行ノ目的ハ單ニ統計問合ノ結果ヲ順序善ク整理スルニアリ、即チ諸報告ノ最新ヲ期シ且ソ此儘情報ノ最完全ナルモノヲ有スル年鑑ヲ刊行スルニアリ、從テ書記局ハ公文書類ノ資料トシ其内容ノ範囲ヲ連盟規約第八条後段ニ記スル處ニ限定スル年鑑ノ調製ニ從事スルモノトス』

(ロ) 項ニ關シ委員会ハ次ノ如ク決議ス

『書記局ニ對シ其報告中此部分ニ該当スル点ヲ指示シ尙本書記局ノ提案スル組織ガ如何ニ運行スルヤニ關シ次回

會議ニ於テ委員会ガ精密ニ諒解シ得ル為連盟各員ノ集団ニ關スル具体的計画ノ提出ヲ書記局ニ要求ス、但シ此要

求ハ委員会自己ノ所見ヲ何等拘束セザルモノトス』

七、軍備縮減及相互保障問題
即チ相互援助ニ關スル「セシル」條約案（英文案）相互援助ニ關スル「ルカ」案（仏案）及無防備国境地帶設定

= 関スル「セシル」提議
以上ニ關シ委員会ハ次ノ如ク決定ス
(+) 今回會議ニ於テハ投票採決ニ依ル何等決定ヲ為サザルコトトシ委員会ニ付セラレタル他ノ修正案提案（無防備地帯ニ關スルモノヲ含ム）ヲ考慮シツツ「セシル」案各条項ヲ審議ス

(+) 「ルカ」案及無防備地帯ニ關スル「セシル」提案ヲ常設委員会及混成委員会内特別委員会ノ審議ニ付ス
(+) 次回連盟総会前ニ開カルベキ次回混成委員会（七月三十一日）迄ニ委員会ガ作成スベキ最終的決定案（註

海軍軍備制限決議第一四ノ(b)参照）ノ起草ヲ延期ス

本電松田公使閱覽済

III O I 六月一十一日 在(パリ)松田連盟事務局長(内田外務大臣宛)(電報)

英國修正案ノ大幅ナ修正条項報告ノ件

連第一四八号 (六月一十一日接受)

清河少将ヨリ外務、陸、海軍大臣へ

海盟第九八号

修正英案ノ梗概

海盟第九七号往電ノ如ク同案ノ将来ハ仏「ルカ」案（海盟第九六号）伊太利西班牙修正案及會議中ニ「セシル」ノ提出セル再修正案等アルカ為極メテ複雜ノモノトナリ此等一切ノ案ハ七月中旬ノ特別委員会ニ於テ取纏メ何等カ一案ヲ得ルニ努ムル筈ナルモ殆ト英案ノ反対トモ云フキ仮案ノ撤回ナキ限り來ル特別委員会カ纏リタル案ヲ得ル見込甚タ渺ナキ状況ナルニ依リ修正英案ハ逐条電報セス其他ノ各案ト共ニ郵送スルコトトシ原案（「C」、「T」、「A」一百九十二号郵送済）リ比シ大修正ノ条々ノマサ左リ報告ス

1、原案十二条侵略者決定ノ条項ハ異論多ク條約案ノ難観ナリシヲ以テC項ヲ削除シ又「因日ハ短キニ過ク」トノ異論ニ對シテハ之ヲ延ハシ得ル如ク改メタル外大体原案ヲ其儘ニ為シ置キ侵略者決定ニ標準トモ云フキ長編ノ註釈ヲ本条ニ付加セリ（右註釈郵送ス）

1、「原案十六条ハ海空軍ノ兵力ニ關スル規定アリテ軍事委員会ノ異論ヲ起シタルニ鑑ミ「セシル」ハ軍人カ異論ヲ唱フルニ困難ナル如キ概括的条項ヲ以テニ代ヘ新十五条トス又原案十七条末段阿弗利加以下海軍力ニ關スル条件ヲ削除シ新十六条トス

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 III

III

Article 16.

Apart from any special treaty concluded in accordance with the above and subject to the provisions of any such treaty, the H.C.P. undertake to bring, at the request of the Council, military assistance to any State which is attacked. The Council of the League of Nations shall address to the H.C.P. a request for the military, naval and air forces which it desires to have place at its disposal. They shall choose, in agreement with the State attacked, the State which shall nominate the commander-in-chief of these forces, and they shall define the character and purpose of his command. Priority to communication shall be accorded by the H.C.P. for the purposes of bringing these forces into action.

III「原案十条ニテハ軍備縮減ヲ實行セサルモノニ對スル制裁トシテ保障条約ノ与フル権利ノ停止及大体連盟規約十六条ノ制裁ヲ規定シアリシカニ改メ新十五条ノ軍事条項ヲモ加ヘ得ル如ク規定シ新十条トシ原十一条削除

Article 10.

If the Council by a majority of three-fourths is not satisfied, within a period of which it shall itself in each case fix, that the menace of war no longer exists.

III

- (a) They shall suspend the Party causing the menace from all its rights under this Treaty under such conditions as they shall think fit;
- (b) (They may) take any other measures which they may consider right, including a recommendation to the H. C. P. that penalties similar to those provided in Article 16 of the Covenant against Covenant-breaking State causing the menace;
- (c) (They may) address a request to each of the H. C. P. to prepare such military forces as they think necessary for the purpose of averting the menace of war;

(d) They may further choose, in agreement with the State attacked, the State which shall nominate the commander-in-chief of these forces and define the character and purpose of his command;

(e) They may make provision for the necessary priority of communications.

四、原案十八条軍費ニ関スル条項ハ概括的規定ナリシカガ
ト一層精密ナルヤヘトハ新ナ十七条ムベ

The H. C. P. agree that the whole cost of any military operations undertaken in pursuance of the Treaty

本電松田公使閲覽済

III O II 七月二十一日 在パリ陸海空三軍代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ニカハ申佐提出ノ仮提案及シヤハルノ無防備 国境地帯設定案討議ノ件

連軍第1111號 (7月21日接受)

第一回軍事委員会ハ七月五日開始同七日終了ス本軍事委員会ハ從来ノ懸案リシテ混成会ニ付議セラレ未決ノ儘終リタル相互保障問題ヲ次回ノ混成委員会(本月末ヨリ四月ニテ開催ハ予定)於テ審議スルニ先立チ其ノ専門的事項ニ關スル軍事委員会ノ意見ヲ求メタルモノリシテ主ニシテ「ハジヤン」中佐ノ提出セル仮案(海盟第九六号電参照)並「ヤンル」卿ノ無防備国境地帯設定案(海盟第九九号電参照)ニ付キテ討議セラレタリ其ノ状況概不左ノ如シ

「ハジヤン」中佐ハ開会ノ前日仮案ノ修正案(其ノ根本主義ニ於テ何等変化ナシ修正ノ要旨ハ陸空第八号電参照)ヲ提出シ該案ニ付キテ討議進行中議論ハ大体二ノ派リ分レ白国委員ハ全然仮案ニ賛意ヲ表シ瑞典、伯刺西爾委員ハ國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 III

ty, including reparation for any material damage caused in the course thereof, shall be borne in the first instance by the aggressor State, and if and in so far as the financial capacity of the aggressor State may be found inadequate for the discharge of this obligation, then by the other H. C. P. The amounts payable under the article by the aggressor shall, to such extent as may be determined by the other H. C. P., be a first charge on the whole of the assets and revenues of the State. Any repayment by that State in respect of the principal money and interest of any loan, internal or external, issued by it, directly or indirectly, during the war, shall be suspended until the amounts due for costs and reparations are discharged in full.

五、云々上ハ全然面倒ハ高メタル条項リシテ其ノ他ハ修正ハ約加ヘバ原案中連盟規約ニ関係ナク直ニ威力ヲ發揮シ得ル如キ規定ハ仮ノ反対ヲ緩和スル為字句ヲ弱メ若ハ連盟規約ニ関連ヘル如ク修正(修正後ト雖仮ハ同意セバ)シナリ而シテ原案ト大体ニ於テ変化ナキハ原案十九条以下ハ七ヶ条リ過キス尚右ノ如ク修正セシ各条ト雖五月倫敦委員会ニ於テ全員ノ同意ヲ得ス殆ド全額留保付ナリ

向ニアルカ如ク観測セラル

一、「セシル」卿無防備地帯案ノ討議

各国海軍委員ハ該案カ海上問題ニ触レ居ラストノ理由ノ下ニ之カ研究ヲ回避セントセシモ議長ノ意見ニ依リ之ヲ総会ニテ討議スルコトナリシカ各國委員悉ク其ノ専門的ノ見地ヨリ該案ニ反対シ終ニ左ノ要旨ノ意見ヲ全会一致シテ報告スルコトトナレリ

(詳細ハ筆記報告)

「セシル」卿ノ無防備地帯案ニ対スル軍事委員会ノ意見天然ノ障碍ヲ以テ国境トセル國カ之ヲ拠棄スルコトヲ肯セサレハ此ノ問題ハ成立セス尚人工的国境ノ場合ニ於テモ左ノ趣旨ニ依リ便ナラス

(1) 侵略者ノ決定ハ此ノ問題ト関係無キ場合多キコト

(2) 国家ノ資源ト其ノ地域ノ一部トヲ犠牲ニ供スルヲ以テ大國ヨリモ小国ノ負担大ナリ

(3) 此ノ地帯アルカ為ニ被侵略者ハ數時間ノ余裕ヲ得ルカ如キモ然モ国境付近ノ地形ヲ防御ノ為適當ニ利用スルヲ得ス

(2) 侵略ヲ企図スル國家ハ此ノ地帯ニ隠レテ軍隊ヲ集中スル

員会ノ所見白耳義、伯刺西爾、英、仏及瑞典ノ五国委員ヨリ成ル多數意見次ノ如シ

相互保障ノ一般条約ノ範囲内ニ於テ募集集団ヲ構成スルコトノ可否並ニ如何ナル方法ニ募集集団ヲ構成スベキヤニ関スル一般問題ハ事政略ノ事項ニシテ常設軍事諮詢委員会ノ権限外ナリ然レ共委員ハ専門的見地ニ於テ該案ニ対シ一般研究ヲ為シ次ノ所見ヲ発表ス

一、募集集団ノ一員タル締約国ニ関シテハ本案ハ侵略行為ノアリタル場合即時且有効ナル援助契約ヲ予メ作製スルコトヲ得セシムルガ如ク見ニ第六条ニ示サレタル募集集團外ニ在ル國家ニ対スル侵略行為ヲ処理スル為ノ方法ハ正当ナル主義ニ基クモノナリ又此方法ハ之等ノ募集集団以外ノ国ガ其境遇ニ応ジ受クルコトヲ期待スルガ如キ合理援助ヲ与ヘ得ル如キモノト思考セラル

二、募集集団ヲ構成セル締約国ハ其協約ニ於テ予察セラレ理事会ニ依リ認メラレタル場合ニ於テ遲滞ナク行動ヲ起ス事ヲ得又集団ガ構成セラレタル決定目的ニ就テハ此集団ヲ構成セル締約国ノ協約ハ限定セラレ居ルガ如ク考フルコトヲ得然レトモ其ノ事項殊ニ一般ノ義務ニ関シテハ制

ニ便ナルコトアリ

(4) 此ノ地帯ハ所謂無人境ニシテ両国カ之ヲ敵守スルニ非サレハ軍事上ノ見地ヨリハ殆ト何等ノ価値ナシ

(5) 地帯ノ幅員五十粁ハ近世ノ輸送力迅速トナリシ為軍事上何等ノ価値ナシ又此ノ幅ハ航空問題ヲ度外視セルモノナリ

(6) 地帯内ノ鉄道ノ破壊ニ関シテハ商業上ト侵略上ノ必要ト一致セル場合多キコトヲ考慮セサルヘカラス

(7) 地帯内ノ軍事施設ヲ破壊スル結果其ノ地方ノ紛擾ヲ鎮静スルコト困難ニシテ又此ノ地帯内ノ人民統御法ハ一問題ナリ

陸海空軍代表者、外務、陸軍、海軍済

三〇四 七月二十三日 在パリ陸海空三軍代表ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

ルカン中佐ノ提出セル相互援助条約案ニ関ス

及ビスペイン三国委員ノ意見報告ノ件

連空第九号

(七月二十四日接受)

「ルカン」中佐ノ提出セル相互援助条約案ニ関スル軍事委

限スルコトナン

結論、委員ハ上ニ表示セル専門的見地ヨリ「ルカン」案ハ総会決議第十四ニ合致スルト同時ニ常設軍事諮詢委員会ニヨリ特ニ考慮セラレタル原則ヲ實質的ニ含有ストノ意見ヲ有ス本案ハ亦上ニ表明セル専門的ノ同ジ見地ヨリスレバ軍備縮限ニ導ク所ノ相互援助条約案作製ノ為有望ナル基礎ヲ供給スルガ如ク見ニ尚本案ノ現在ノ形式ハ真ノ一般的性質ニ止マルヲ以テ之レ以上ノ詳細ナル所見ヲ述ブル事ヲ得ズ伊太利、日本及西班牙委員ハ一致シテ次ノ意見ヲ發表ス「ルカン」案ハ新ナル且慎重ナル考慮ニ值スル各方面ノ觀念ヲ藏スト雖特ニ特別條約ヲ目的トスルカ如ク見ニ特別条タル常設軍事諮詢委員会ハ本年七月開催セラレタル常設軍事諮詢委員会ニ於テ既ニ表明セシ決定的反対ノ所見(記録四三四一)ヲ留保ス即チ斯ノ如キ特別條約ハ軍事同盟ノ衡平ニ導カルヘク且其ノ結果ハ軍備縮減ヲ容易ナラシムルコトナク却テ更ニ軍備縮減ヲ困難ナラシムヘシ「ルカン」案ノ条項ハ殆ト全部政治的性質ノモノニシテ且余リニ一般的ナル本質ヲ有ス該条項ハ少シモ的確ナル軍事的性質ヲ備ヘサルヲ以テ之ニ関シ何等ノ結論モ得ヘキ根拠

ナキモノノ思考セラル

軍代表者「ルカン」案第八条ニ関スル委員会ノ意見

之ニ関スル意見ハ日本委員カ其政府ヨリ何等訓令ヲ受ケ居ラサリン為決ニ加ハラサリシ外、委員会ノ大多数ヲ以テ次ノ如ク採用セラレタリ

委員会ノ各員ハ第十一項軍事委員会ノ機関ニ作製セラレタ

ル第八条ニ含マレタル提言ニ関シテハ未タ何等其政府ノ訓令ヲ受ケ居ラサルヲ以テ單ニ個人ノ資格ニ於テ述レバ該条

ニ含マレタル觀念ハ適切ナルモノニテ其賛同ヲ受クヘキナ

リ

外務陸軍海軍済ミ

三〇五 七月二十四日 在パリ陸海空三軍代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏國委員ルカン中佐提出ノ相互援助條約修正

案要領報告ノ件

(七月二十五日接受)

仏國委員「ルカン」中佐ノ提出セル相互援助條約修正案ノ要領左ノ如シ

締約国ハ連盟規約第八条及規約第十条ニ記載セラレタル義

第四条(旧第三条)左ノ第二項ヲ加フ

調印国ハ実施シタル軍備縮限ヲ理事会ニ通告ス

第五条(旧第四条修正)『自働的ニ發動ス』ノ……下ヲ左ノ如ク改正ス

第三条(旧第二条修正)第二項以下左ノ如ク修正
『右締約セラレタル協約ハ軍備削減案ト共ニ國際連盟ニ通告セラルベシ是レ上記協約中ニ記載セル偶然ノ侵略行為ガ理事会ニ依リテ認メラレ且侵略行為ノ或場合ニ対シ理事会ハ第五条第二項ニ記載シタル補助ノ援助ノ見地ニ於テ当然他ノ締約国ニ要求スルヲ要スルヲ以テナリ該協約ハ連盟規約第十八条ニ從ヒ登録ス』

第一条(新設)締約国ハ理事会ノ任命スル國際連盟ノ軍事委員ヲ接受シ之ニ陸、海、空軍武官(attaché)ト同様ノ特権ヲ与ヘ且其國ノ軍備ニ就テ現在武官(attaché)ニ

与フルト同様ノ通告ヲ供与スルコトヲ約ス

第七条ハ旧第六条ニ同ジ

第六条ハ旧第五条ト概ね変化ナシ

第七条ハ旧第六条ニ同ジ

第八条(新設)各締約国ハ理事会ノ任命スル國際連盟ノ軍事委員ヲ接受シ之ニ陸、海、空軍武官(attaché)ト同様ノ特権ヲ与ヘ且其國ノ軍備ニ就テ現在武官(attaché)ニ

与フルト同様ノ通告ヲ供与スルコトヲ約ス

第九条(新設)主義トシテ或ル大陸ニ位置スル如何ナル國家モ他ニ対シテハ本條約第五条第二項及第六条ニ記載セラレタル一般並ニ補助ノ援助ニ關シ陸海軍並ニ空軍ノ軍事手段ノ協力ヲ為スコトナシ

第十条(新設)締約国ハ戦争ノ費用陸、海、空軍ノ費用即チ本條約並ニ追加防衛協約ニヨリ企図セラレタル總テノ

軍事行動ノ費用ハ(之等ノ軍事行動ニ依リ生ジタル總テノ物質的損害ノ復旧費ヲモ含ム)財政能力ノ極限範囲迄

相互ニ協議ス而シテ調印国ハ理事会ガ連盟規約第十条所載ノ行動ヲ為シ得ルガ為其執リタル手段並ニ将来執

ラントスル手段ヲ理事會ニ通告ス、集団以外ノ締約国ハ第六条所載ノ場合ノ如ク同条ニ定メタル条件ニ依リ

理事会ノ勧告スル援助ヲ右集団ニ提供ス

第三条旧第七条ト殆ト変化ナシ

右ノ外若干ノ修正アリト雖モ其趣旨ニ於テハ原文ト大差ナ

キヲ以テ筆記報告ニ譲ル

外務陸軍、海軍済ミ

三〇六 八月十日 在パリ清河海軍少将ヨリ
財部海軍大臣、山下軍令部長各宛(電報)

第八回混成委員会通過ノ相互援助條約案ノ重

要条項報告ノ件

第一〇六番電

(八月十一日海軍省着)

第八回混成委員会審議ノ状況及多数ニテ通過セシ相互援助條約案ノ重要条項ハ松田公使ヨリ発電ノ如シ

右条約案ハ來ル連盟総会ニテ九月六、七日頃ヨリ審議ノ見込ナルニ付之カ賛否ニ關シ我政府ノ態度ヲ決シ置カルル必

要アリト存ス條約案ハ郵送セリ尚公使ヨリ発電ノ条項ハ原文仏文ナルニ付左ニ訳文ヲ電報ス

第二条以下第九条迄訳文左ノ如シ

原文極メテ複雑ナル故意味ヲ失ハサルヲ主トシテ文句ノ冗長ヲ厭ハス翻訳セリ訳語必スシモ対立セス

第二条、締約国ハ其ノ一員ガ本條約ニ遵ヒ軍備縮減ヲ実施シタル後他ノ侵略ヲ受ケタル場合ニハ之ニ対シテ本條約ノ条項ニ從ヒ援助ヲ与フルコトヲ合同的ニ且個々ニ（Jointly and Severally）約定ス

第三条 締約国ノ一ガ他締約国ノ軍備ハ本條約ニ依リ規定（第九条ニ依リ将来規定サルルモノナリ）ノ分量ヨリ超過スルモノナリトノ意見ヲ有スル場合或ハ締約国ノ一ガ他締約国若ハ締約国ニアラサル國ノ侵略政策又ハ軍事準備ハ遂ニ敵対行為ヲ生スルノ憂ヲ懷カシムル如キ性質ノモノナリトノ意見ヲ有スル場合ニハ右ノ意見ヲ有スル國ハ其國ガ侵略ノ脅威ヲ受クルモノナルコトヲ國際連盟書記長ニ通報スルヲ得而シテ書記長ハ之ニ依リ理事会ヲ召集スヘシ、理事会ニシテ侵略ノ脅威起レリト考フヘキ有利ナル根拠アリトノ意見ナルトキハ理事会ハ脅威ヲ除去

而シテ之カ為ニハ援助ガ状況ノ要求スル緊急度ニ從ヒ發動シ得ルヲ目的トシテ遲滞ナク總テノ必要ナル手段ヲ執ルコトヲ約ス

特ニ理事会ハ

(A)侵略国ニ対シ連盟規約第十六条ニ依ル經濟的制裁ノ適用ヲ決定スルコトヲ得

(B)連盟規約第四条ニ從ヒ援助ヲ供給スル國ト協定ノ後理

事会が自己ノ処理ノ下ニ置カントスル兵力ヲ援助供給

國ニ通報スルコトヲ得

(C)行動（注意、主トシテ作戦）ニ関シ通信ノ優先ヲ確保

スル為總テノ必要ナル手段ヲ執ルコトヲ得

(D)被攻擊国ニ對シ其防禦ニ要スル資金ヲ供給スル目的ヲ以テ締約国間ニ財政的協同ノ方案ヲ準備スルヲ得

(E)被攻擊国ノ同意ヲ得テ總司令官ヲ任命シ又被攻擊国ト協議シテ總司令官ノ任務綱領ヲ立ツルコトヲ得（注意、政策ト用兵ノ錯綜ヲ考慮シ辞句ヲ広義ニナシアルモ帰スル所ハ任務ノ決定ナリ）

第六条 締約国カ第一、第三、第五条ニ掲クル一般的援助ヲ即時有効ニ実施シ得ル為締約国ハ其ノ二國間又ハ數国

スル為總テノ必要ナル手段ヲ執ルヘシ而シテ其ノ手段トシテハ理事会ガ正当ナリト考フル場合ニ於テハ侵略実現ノ場合ニ応スル為ノ規定即チ本條約第五条A、B、C、Dニ掲クル手段ノ何レヲモ執ルコトヲ得

第四条 締約国ノ一若クハ數国ニ対シ侵略起リタル場合ニ於テハ其ノ事態ガ連盟書記長ニ申告セラレ其注意ヲ喚起シタル日ヨリ算シテ四日ヨリ多カラサル期間ニ於テ理事会ハ敵対行為ヲナス國ノ何レガ侵略者ナルヤヲ決定シ

特別條約調印国ガ敵対行為ニ加ハル場合ニ於テモ右規則ヲ適用スルモノトス但シ理事会ノ協商員ガ右調印国ヲシテ投票セシムヘシト決シタル場合ハ此限ニアラス

第五条 締約国ハ侵略サレタル本條約參加国ノ何レニ対シテモ理事会ガ最モ有効ナリト推奨スル形式ニ於テ援助ヲ提供スルコトヲ約ス

間ニ於テ特ニ相互防禦ヲ目的トシ又本條約ニ規定セル手段ノ實行ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ何レカノ一國ニ對シ可能ナリト考フル侵略行為ノ起リタル場合ニ互ニ提供スヘキ援助ヲ予メ約定スル為ノ本條約補助協約ヲ締約スルコトヲ得

第七条 第六条ノ意義ニ於ケル防禦協約ハ理事会ニテ吟味シ本條約並連盟規約ニ抵触セサルコトヲ認メラル為國際連盟ニ通報スヘシ特ニ理事会ハ右協約ガ事件發生ノ場合本條約第四、第五条ニ依リ他締約国ノ援助ヲ要求スルニ當リ理事会ノ決定ヲ正当ナラシムル如キ性質ノモノナルヤ否ヤヲ考慮スヘシ右協約ニシテ理事会ノ承認ヲ経ルトキハ連盟規約第十八条ニ從ヒ登録セラレ本條約ノ付録ト認メラルヘシ是等協約ハ本條約調印国ノ一般的義務並本條約ニ依ル侵略国ニ對スル制裁ヲ何等制限スルコトナシ又は等協約ハ總テノ場合ニ於テ調印国ノ承認ニ依リテ加入シ得ル如ク他ノ締約国ニ公開セラルヘシ

第八条 第六、第七条ノ意義ニ依ル防禦協約ニ依リ予想スル侵略ノ總テノ場合ニ於テ該協約締約国ハ其協定セル援助計画ヲ即時実行スルコトヲ得

防衛協約ノ予想スル場合及該協約予想セサル侵略ノ場合ノ何レニ於テモ第四、第五条ノ規定ハ条項ニ関係ナク効力ヲ生スヘシ

総テノ場合ニ於テ特別協約締約国ハ必要ナリト思考スル防衛手段ヲ理事会ニ通牒スヘシ本條約締約國ハ理事会力本條約第五条並其条件ニ從ヒ推奨スル援助ヲ防衛協約締約國ニ提供スルコトヲ約ス

編註 本電報ハ「第一条以下第九条迄訳文左ノ如シ」(三四四貞三行目)以下「第五条」訳文ノ終リマデハ八月十日發電同十四日海軍省着、「第六条」訳文以下ハ八月十四日發電同十五日海軍省着ノ旨ガ記載サレテイル。

尚「第九条」訳文ハ見当ラナイ。

三〇七 八月十一日 在パリ松田連盟事務局長ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

第八回混成委員会ニ於ケル相互援助条約案審査状況報告ノ件

連第一八二号 (八月十二日接受)

外務陸軍及海軍三大臣ヘ

第八回軍備縮小混成委員会ハ八月三日ヨリ八日迄十回ノ會議ヲ巴里ニ開催シタリ議題ハ十件ヲ數ヘタルモ主タルモノ

約締結ノ趣旨ヲ没却ス理事会ノ決定ハ四日以内ト規定セラレアルモ四日ヲ俟ツ時ハ国土ノ大半ハ荒廃ニ帰スルコト大戦ノ例ニ依リ明ナリ若シ之ガ認メラレザレバ仏國ハ本件ヲ本條約中ニ規定スルヲ好マズ何トナレバ各國ハ自主権ニ依リ自由ニ此種ノ条約ヲ締結シ得ベク從テ本條約案ハ之ヲ律スルヲ得ザルベシト言フニ在リ

(三)右ハ主義上ノ問題ニシテ本條約案ノ根本問題ナリ票決ノ結果倫敦原案タル即時軍事行動主義多數ニテ採用セラル伊、智利、西、労働側、本官、清河ハ之ニ反対ノ投票ヲ為セリ(十九票対九票欠席三票)

猶右ハ伊國ノ主張ニ依リ賛否者姓名ヲ議事録ニ登載スルコトトセリ

(四)右ノ点ニ關シ保留ヲ宣明セリ其理由トシテ保障ハ一般協約ニ之ヲ求メザルベカラザルコトヲ確信ス但特別ノ地位ニ在ル國ノ為特殊協約ガ軍縮ノ為必要ナレバ之ヲ認ムルニ躊躇セズ尤モ此場合ニ於テモ理事会ノ監督權ヨリ脱セシムルヲ得ズ何トナレバ是戰前狀態ヘノ復帰ナレバナリ(暗ニ第八条第一項ノ『即時』ト言フ規定ヲ何等カ考量シテ理事会監督權トノ調和ヲ計ルノ要アルコトヲ主張ス

ルモノナリ但具体案ハ提セズ伊國案ハ原則ニ固執シ客年総会軍縮決議第一四ノ趣旨ニモ余リニ遠ザカル然レドモ仏ノ主張ヲ其儘認ムルハ危険ナルコト伊國ノ主張ノ如シ又西、智利、労働側モ特殊協約ノ動ク範囲ヲ成ルベク制限セムトノ趣旨ニテ反対ニ加ハリタルモノナリ

(五)条約案第一三条ノ規定ナル倫敦議定原案ニ独逸及露国ヲ直ニ本條約ニ加盟スルヲ許ス趣旨ノ規定(「セシル」案)ト本條約ニ加盟スルニハ先以テ連盟加入国又ハ連盟規約末尾列記国ナラザルベカラズトスル仏國案トヲ兩案其儘採用シ本會議ニ付議セリ

右ニ關シ本官ハ理事会ノ作用並本條約ノ應用上ハ仏案ヲ可トスルモ政治的実際的ニハ「セシル」案ヲ可トスベシ而シテ本會議ニハ何人モ一個人ノ資格ニテ出席シ政府ヲ代表セザルニ依リ右法理ト政治トヲ加味シテ決定スル為両案ヲ矢張其儘本會議ノ討論ヲ参考トシテ添へ理事会ノ採択スルガ儘ニ移サムト提議シタルガ票決ノ結果本官ノ主張ハ少数ニテ「セシル」案採用セラル其結果仏國ハ本條約ノ加入国ハ連盟加入国又ハ規約列記国ナラザルベカラザル旨ノ保留的宣言ヲ為セリ

ハ客月中倫敦特別委員会ノ議定セル相互援助条約案ノ審査ニ在リ本邦委員トシテハ本官及清河少將出席セリ

討議ノ結果最後ノ票決ニ於テ伊國側三委員並(不明)清河ノ反対ノ外本官、西、智利、労働側等ノ保留付ヲ以テ大多數ニテ一ノ援助条約案ヲ免セ角議定セリ該案ハ八月末ノ理事会ニ報告セラレ總会ニ付議セラルベキニ依リ電ヲ以テ右条約案ノ大要並主ナル個条ノ原文電報スペシ就テハ成ルベク速ニ政府ノ意見御回訓ヲ請フ

猶右會議ニ於ケル主ナル討議次ノ如シ(条約案ハ九日新聞ニ公表セラレタリ)

(一)条約案第六条乃至第八条ハ仏國側ノ主張タル特殊協約ニ関スルモノナリ右ニ關シ伊國側ノ主張ハ特殊協約(即チ二國又ハ數國間ニ特ニ即時兵力援助ヲ約セル協約)ハ元來一般協約ト主義ニ於テ両立セズ戰前ノ同盟關係ヲ再現セシメ軍ノ目的ヲ達セズ極メテ危險ナリ故ニ特殊協約ノ場合ニ於テモ侵略ニ対シ特殊協約締盟国ハ直ニ軍事行動ヲ執ルヲ得ズ一応理事会ガ侵略ノ有無ニ関シ決定ヲ与ヘタル後ナラザルベカラズト言フニ在リ

(二)仏國ノ主張ハ若シ直ニ軍事行動ヲ執ルヲ得ザレバ特殊協

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 三〇八

三〇八

ア 第一八条ハ倫敦議定原案ノ初メヨリ一案ハ採用シ本件議
ニ提セリ本案ハ理事会ノ決定ニ一任スルノ趣旨ニ全員同
意セリ本會議ノ意向トシテ理事会ヨリ法律委員ノ如キヤ
ノリ諮詢ベシク其打合リテ決定セラルキ事項ナリト認
メ居レバ

イ 第一九条ハ何人ヤ之ヲ認ムルニ傾ケルヤ本官ハ第一項ノ
規定ニ不充分ノ廉アリト認メタルニ依リ脱退ノ方法及經
過規定數項ノ増加ヲ提議シ右ハ第一九条ト同一ノ委員ニ
シ議セラルルコトニ決セラ

三〇八 八月十一日 在パリ松田津盟事務局長ニ
内田外務大臣宛(電報)

第八回既成委員会ノ採択ハタル相互援助条約

概報告ノ件

七福一 右相互保障条約案ニ関スル海軍側意見

一 同陸軍側意見

(八月十一日接収)

連第一八二二印
外務陸軍及海軍大臣

第八回既成委員会ノ採択シタル相互援助条約案左ハ通
前文 締約國ハ規約第八条第一項末段ノ程度迄軍備ハ縮小

de telles menaces, qui pourraient comprendre s'il l'estime
juste telles mesures indiquées par ce Traité aux alinéas
a. b. c. d. du deuxième paragraphe de l'art. 5.

Article 4.

Dans le cas d'agression contre l'une ou plusieurs
des H.P.C., le Conseil de la Société des Nations devra
décider, dans le délai de quatre jours au plus, à dater
du jour où le Secrétaire Général aura été saisi, lequel
des Etats engagés dans des hostilités a été l'agresseur.

Les H. P. C. s'engagent, quelles que puissent être
les clauses des accords particuliers auxquels elles sont
parties, à accepter la décision formulée par le Conseil
de la Société des Nations. Aux fins de cet article ne
prendront pas part au vote, les Etats participant aux hos-
tilités. Il en sera de même les Etats signataires des
accords particuliers appelés à jouer, à moins que les
membres restants du Conseil n'en décident autrement.

Article 5.

Les H. P. C. s'engagent à fournir à tout Etat, partie
au présent Traité, le victime d'une agression l'assistance
dans la forme que le Conseil recommandera comme la
plus efficace et à ce propos de prendre sans délai

ア 促進ヤンカ為相互援助ニ關スル左記ノ基礎ヲ設立ヤハ
欲シテ本條約ヲ結フモノナリ
第一条 締約國ハ侵略的戰争ヲ國際的罪悪ト認メ是ヲ犯サ
カルコトヲ約ヘ
第二条 締約國ハ共同又ハ单独リト本條約ヲ遵守シテ軍備
ヲ縮小シタル國カ侵略ヲ謀ベリタル場合ニ援助ヲ与フクキ
コトヲ約ベ

Article 3.

Dans le cas où une des H. P. C. estimeraient les
armements à un Etat, partie au présent Traité, excé-
dant ceux déterminés en application des dispositions du
présent Traité et au cas où la politique aggressive ou
les préparatifs militaires de tout Etat, partie ou non
au présent Traité, seraient de nature à faire craindre
aux H. P. C. l'ouverture éventuelle des hostilités, elle
pourra informer au Secrétaire Général de la Société des
Nations qu'elle est sous le coup d'une menace d'agres-
sion et celui-ci devra immédiatement convoquer le
Conseil de la Société des Nations. Si le Conseil est
d'avis qu'il existe des motifs plausibles de redouter
l'aggression, il prendra toutes les mesures pour écarter

toutes les mesures pour qu'elle puisse être mise en
œuvre dans l'ordre d'urgence commandé par circon-
stances.

En particulier, le Conseil pourra;

- a) décider d'appliquer à l'Etat agresseur les sanc-
tions économiques prévues par l'article 16 du
Pacte de la Société des Nations;
- b) faire connaître aux Etats assistants, après avoir
pris leur avis, conformément à l'article 4 du
Pacte de la Société des Nations, les forces qu'il
désire voir mises à sa disposition;
- c) prendre toutes les mesures pour assurer la
priorité des communications relatives aux
opérations;
- d) préparer un plan de coopération financière
entre les H. P. C., en vue de fournir à l'Etat
attaqué les fonds nécessaires à sa défense;
- e) désigner avec le consentement de l'Etat attaqué
commandant en chef et lui fixer, avec la
collaboration dudit Etat le but et la nature de
sa mission.

Article 6.

Afin de permettre aux H. P. C. de donner une efficacité immédiate à l'assistance générale, prévue aux articles 2, 3 et 5, les H. P. C. pourront conclure, soit à deux, soit entre plus grand nombre, des accords complémentaires au présent Traité, dans le but exclusif de la défense mutuelle, réglant à l'avance l'assistance qu'elles se prêteraient dans les éventualités d'agression qu'elles estimeraient possible contre l'une quelconque d'entre elles et destinés uniquement à faciliter l'exécution des mesures prescrites à ce Traité. De semblables accords pourraient également, si les H. P. C. intéressées le désiraient, être négociés et conclus sous les auspices de la Société des Nations.

Article 7.

Les accords défensifs au sens de l'article 6 seront communiqués à la Société des Nations.

Afin qu'ils puissent être examinés par le Conseil et reconnus conformes aux principes du présent Traité et du Pacte en particulier, le Conseil examinera si lesdits accords sont de nature à motiver sa décision ultérieure de demander le cas échéant et sous réserve des conditions spécifiées des articles 4 et 5 du présent

Article 9

de la Société des Nations des mesures défensives qu'elles estiment nécessaires à prendre.

Les H. P. C. s'engagent à fournir aux Etats signataires de tout accord défensif de cette nature l'assistance que le Conseil de la Société recommandera conformément à l'article 5 ci-dessus et dans les conditions qui y sont spécifiées.

Les H. P. C., tenant compte des sécurités que leur apporte le présent Traité, s'engagent à faire connaître au Conseil de la Société des Nations les réductions ou les limitations d'armements qu'elles estiment proportionnelles d'une part, aux sécurités fournies par le traité général seul au cas où le traité général leur suffirait, d'autre part, aux sécurités apportées par les accords défensifs complémentaires du traité général.

Elle prennent en outre l'engagement de coopérer à tout le plan général de la réduction des armements que le Conseil de la Société, tenant compte des informations qui lui sont ainsi fournies par les H. P. C., pourra proposer en exécution des termes de l'article 8 du Pacte.

Traité, l'assistance des autres H. P. C.. Lorsqu'ils auront été reconnus tels, ces accords devront être enregistrés conformément à l'article 18 du Pacte et considérés comme complémentaires du présent Traité. Ils ne limiteront en rien les obligations générales des Etats signataires ni les sanctions prévues contre tout Etat agresseur, telles qu'elles résultent du présent Traité. Ils devront, en tout cas, demeurer accessibles avec le consentement des Etats signataires à tout autre H. P. C., qui demanderait à en faire partie.

Article 8.
Dans tous les cas d'agression prévus par les accords défensifs, définis dans les articles 6 et 7, les Etats signataires desdits accords peuvent s'engager à mettre immédiatement à l'exécution du plan d'assistance,

arrêté entre elles, sous réserve du paragraphe précédent.

Les dispositions des articles 4 et 5 ci-dessus entrent également en vigueur à la fois dans les cas mentionnés ci-dessus et dans les autres cas d'exception qui ne

Dans tous les cas, les H. P. C., parties aux accords particuliers, devront, sans retard, informer au Conseil hommes russes et dans les autres cas d'agression qui ne seraient pas envisagés dans les accords défensifs spéciaux.

des Gouvernements et une fois approuvé par eux, formera la base de la réduction envisagée dans l'article 2 du Traité.

Les H.P.C. s'engagent à effectuer cette réduction dans le délai de deux ans, à dater de l'approbation du plan en question, après avoir fait connaître au Conseil les réductions des armements effectuées.

Les H.P.C. s'engagent à se conformer aux stipulations de l'article 8 du Pacte de la Société.

第十一条 締約国ハ理事会ノ任命シタル連盟ノ代表委員ニ軍事ニ関スル報道ヲ供給スルコトヲ約ス

第十二条 締約国ハ主議上其ノ属スル大陸以内ニ於テ其陸海空軍ヲ以テ協力スルノ義務ヲ負ハス

第十三条 締約国ハ侵略国ニ軍事費及損害賠償ノ全部ヲ其支払能力ノ最大限度迄負担セシムヘキコトヲ約ス

第十四条 侵略国ノ財産及収入ハ右軍事費及損害賠償ノ第一順位ノ担保ニ充当セラルヘク其ノ全部ノ支払ヲ了スル迄ハ侵略国ノ軍事時公債ノ元利償還ハ停止セラルヘシ

Article 13.

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 三〇八

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 三〇八

一一五

Traité peut y adhérer en notifiant son adhésion au Secrétaire Général de Société des Nations, qui en informera autres H. P. C.

Ets pas membres de la Société des Nations peuvent y adhérer avec consentement des deux tiers des Ets signataires.

第十三条 ニ示サヌタル國ハ理事会ノ承諾ヲ得テ一部的の加盟ヲ為シ得ベキモ其ノ受クル利益ハ其負担スル軍事上及經濟上ノ援助ニ関スル責務ニ比例スル限度ニ止マル但シ本條約ノ軍備縮小ニ関スル条項ニハ無条件ニテ加盟スルヲ要ス
第十五条 本條約各条項ハ連盟規約「ヴェルサイユ、サンデヨルマ、リヨーヴ」及ヒ「トリアノン」條約並本條約ノ効力発生以前ニ連盟事務局ニ登録セラレタル條約ヨリ結果スル権利義務ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

第十六条 本條約ノ解釈及適用ニ関スル問題ハ締約國ノ軍備カ本條約ニ基キ決定セラレタル程度ヲ超ユルコト無キヤ否ヤノ問題ヲ除ク外是ヲ國際司法裁判所ノ最終的判定ニ委ス
第十七条 本條約ニ基キ決定セラレタル軍備ハ五年毎ニ改定ス

後ハ脱退セサル國ノ関スル限り一年ヅツ効力ヲ延長ス

(付記一)

第八回混成委員会ノ決議ヲ経タル相互保障条約案ニ関スル海軍側意見

国際連盟第八回軍備縮小臨時混成委員会ノ決議ヲ経タル相互保障条約案ニ関スル意見

逐条ニ対スル意見

第三条

6、一國ノ軍備、政策、軍事的準備等カ某一國ノ脅威トナルベキコトニ関スル理事会ヘノ通告ニ關シ適當ナル制裁ヲ設ケ虚偽ノ通告ナカラシムル如ク防止スルコト帝国ノ立場ニ鑑ミ特ニ肝要ナリ

第四条

1、第一項ノ規定ハ連盟規約第十二条ト如何ナル關係ヲ有スルヤ連盟加入國ニ関スル限り本項ハ規約第十二条ト抵触スル所アリ

2、侵略國ノ決定ハ何ヲ規準トスルヤ

3、決定期間四日ニテハ不可能ナリ

4、決定ハ全員一致ナルヲ要ス

2、第五条ノ条項ヲ含ミ得ベキ一切ノ措置ヲ採ルコトハ如何ナル方法ニ於テ定マルベキヤ理事会ニ於テ決定スルベキモノナルニ於テハ全員一致ナルヲ要ス

3、係争國ハ理事会ノ表決ニ加ハルモノナリヤ

4、理事会ニ於ケル審査ノ方法ハ如何ニシテ行ハルルヤ

5、理事会ノ決定發動スルニ至ル迄ノ経過ハ各國政府ト如何ナル關係アリヤ各國自主權ニ關係スル所アラサルヤ

1、第一項中「約ス」(s'engager) ナル字句ハ連盟規約

第十条中ニ在ル「約ス」トノ意義上ノ差異如何

第十八条 (法律家委員会ノ審査ニ付スル為ニ案アリ。甲案「批准寄託ノ手続ヲ定メ連盟事務総長ニ於テ歐州ニ於ケル五ヶ國(内三ヶ國ハ常任理事国)、亞細亞ニ於ケル二ヶ國(内一ヶ國ハ常任理事国)及南北亞米利加ニ於ケル三ヶ國ヨリノ批准書ヲ接受シタル時ハ直チニ批准寄託ニ関スル第一回調書ヲ作成シ本條約署名國ニ送付スベク此調書ノ日付ヲ以テ本條約ヲ批准シタル國ニ関スル限り効力発生ノ時期トス」乙案「効力発生ノ時期ヲ大陸毎ニ別トシ歐州ニ於テハ英仏及独又ハ露ノ批准、亞細亞ニ於テハ日本及他ノ一國ノ批准アリタル時ヲ以テ効力ヲ發生セシム又國名ヲ指定セラレタル右ノ締約國中本條約ノ効力発生ノ時ヨリ第九条所定ノ期限迄ニ軍備ヲ縮小セサルモノアルトキハ本條約ハ是等強大國ニ依リテ無効ト見做サレ爾余ノ締約國ハ何時ニテモ脱退スルコトヲ得尚右爾余ノ諸國ニ關シテハ本條約第二条三条五条六条及八条ニ定メラレタル権利義務ハ理事会カ前記國名ヲ指定セラレタル締約國カ本條約ニ遵拵シテ軍備ヲ縮小シタルコト又ハ縮小スルノ手段ヲ十分講シタルコトヲ証明シタルトキ効力ヲ生ス」)

第十九条 本條約ハ効力発生ノ日ヨリ十五年間有効トシ爾

若シ両者ノ意義同一ナルトキハ保障ノ程度極メテ薄弱トナルヘク若シ強キ意味ヲ有スルトキハ各国ノ自主権ヲ拘束スルニ至ルヘシ

シテ連盟諸国ニ実際的ノ保障特ニ軍事的行動ヲ余儀ルトキハ「保障義務ノ原則ヲ確立シタルニ過キス而

ナクセシムルコトナク一般的ニ保障ノ義務ヲ成立セシメタルニ過キス」ニシテ規約第十六条ニ関シテモ

亦行動ノ自由ハ各國主權ノ發動ニ關係ナシト總会ノ解釈一致シアリ

2、d項ハ統帥權ニ関スルコト至大ナリ

第六条

1、連盟内部ニ於テ敵意ヲ誘発スル虞アル二国或ハ數国ノ特殊協定ヲ締結スルハ戦争誘発ノ種子ヲ蒔クモノニシテ連盟ノ根本精神ニ鑑ミ甚シキ矛盾ナリ

2、若シ特殊協定カ单ニ相互援助ヲ迅速有効ナラシムル為ノモノナルトキハ更ニ一層一般的條約ニ力ヲ用フルヲ適當トス

第七条

集團中A国ヲ侵略國ナリト決定スルコトアラハ已ニA

國ト共ニ交戦中ナル甲集團中ノB国ハ乙集團トノ交戦

ヲ停止シ茲ニ同一集團タルA国ニ向テ乙集團ト共ニ作戦スルカ如キ奇観ヲ呈シ理論上極メテ不都合ナリ

第十一条

理事会ノ要求スル情報ハ各國ノ主權ニ關係スルモノアルヘキヲ以テ其提出範囲ヲ予メ協定シ置クヲ必要トス

第十二条

大陸ノ分界意義不明瞭ナルニヨリ一層明確ナラシムルヲ要ス

第十三条

戦争ヲ予期シ其直前本條約ニ加入スルモノナキヲ保セサルヲ以テ之ニ対スル処置ヲ明確ナラシムルヲ要ス

第十八条

2、若シ乙案ヲ採用セラルトキハ亞細亞ニ於ケル二國ノ外歐州ニ於ケルト同様露國ヲ加ヘ置クコト必要ナリ而シテ乙案ノ場合ニ於テハ特ニ第十二条ノ大陸分界ヲ明確ナラシムルノ要アリ

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 三〇八

2、若シ理事会カ特殊協定案ヲ審査ノ後之ヲ認メサルトキハ該協定ハ當然連盟規約第二十条ニ基キ廃棄セラルコトナリ戰爭前ニ於ケル同盟対抗ノ色彩ヲ濃厚ナラシムルモノナリ

3、第三項ハ利害關係同一ナル數國カ緊密ナル集團ヲ作成ルコトナリ戰爭前ニ於ケル同盟対抗ノ色彩ヲ濃厚ナラシムルモノナリ

1、特殊協定ニ於ケル相互間ノ援助計画ヲ直チニ実行スルコトヲ得ル如ク自動的ニ發動スルハ本條約案第四条

第三項ノ規定ト自家撞着スルモノナリ

2、侵略非侵略國ノ決定セサル前已ニ交戦狀態ニ入ルニ至ルヘキ虞頗ル大ナルモノアリ是レ第四条及第六条ノ第二項並ニ第七条ノ第二項末文ト矛盾シ連盟ヲ拘束スルモノナリ

3、特殊協定カ自動的ニ發動スルトキハA、B、両國ヨリ成ル甲集團トC、D、両國ヨリ成ル乙集團ト交戦状態ニ入りタル後理事会ハ本條約案第四条ニ基キ若シ甲

第八条

1、本條約中一般的條約ニ關スルモノハ連盟規約ノ運用ニ

関スル手続ヲ示セルニ過キス相互保障ノ實質及程度ハ何等連盟規約以上ニ出ツル所ナキヲ以テ之ヲ前提トシテ軍備縮小ヲ實行センコトハ困難ナルヘシ

2、特殊協定ニ關スル部分ハ一般的條約ノ趣旨ト矛盾シ两者併立ヲ許サルモノアルノミナラス同盟対抗ノ弊ヲ馴致スルコトハ争フヘカラサル所ナリ

(付記)

第八回混成委員会ノ決議ヲ経タル相互保障條約案ニ關スル陸軍側意見

本條約案賛否ニ關スル意見

帝國政府ハ夙ニ公正ニシテ權威実効アル一般的保障條約ノ成立ニ由リ一般ノ軍備縮小ヲ實現セントコトヲ熱望セシ所ナリ然ルニ本保障條約案ヲ查スルニ保障ノ程度實質ニ於テ從來ノモノニ比シ何等確實性ヲ増大シアルヲ認ムル能ハサルノミナラス相互救援ノ即時有効ヲ主旨トスル特殊協定ヲ包含セシメ條約自体ニ矛盾ヲ生シ一般條約ノ作用ヲ拘束スルモノアリテ連盟規約ノ根本精神ニ背馳スルモノアルヲ認ム

ルニヨリ同意シ難キ所ナリ然レトモ政策上一般、特殊両協約混合案ヲ承認スルヲ帝国ノ為得策ト認ムルニ於テハ

一、本条約案中一般、特殊両協定ノ矛盾セル点ヲ除去シ特殊協定ヲシテ一般的協定ノ作用ヲ束縛スル所ナカラシム

二、一般条約ニ於ケル保障ノ程度ヲ更ニ増大ス

ノ二点ニ関シ審議修正スルニ於テハ混合案ノ承服ニ異存ナキ所ナリ

而シテ右ノ如キ修正案成ルニ於テハ更ニ条約案文ニ就キ審査ノ上賛否ヲ表明ス万一会議ノ形勢之ヲ許ササル場合ハ帝國ノ地理的位置、比隣ノ形勢上國際的援助ヲ享受スルノ利渺ナキ特殊地位ニ鑑ミ帝國陸軍軍備ニ関シテハ採択ノ自由ヲ保留ス

三〇九 八月十四日 在パリ清河海軍少将ヨリ
財部海軍大臣、山下軍令部長各宛 (電報)

第八回混成委員会通過ノ相互援助条約案ノ重

要条項統報ノ件

第一〇七番電 (八月十五日海軍省着)

前電ノ外重要ナルハ左ノ二条ナリ

第十一条 各締約国ハ其軍備ニ関シ理事会ノ要求スル情報ヲ

第十一條 締約国ハ本条約ニ依ル一般若クハ補助援助ニ関シ其國ノ存在スル大陸以外ニ於テ陸海軍作戦ニ協同スルノ義務ヲ負ハサルモノトス

本条ハ倫敦特別委員会ニ於テ英海軍委員ノミ留保セシモノナリ當時説明ナカリシモ其ノ意殖民地關係上世界各地ニ於テ援助ヲ受ントスルト共ニ己モ亦行動セントスルニアルヤ明ラカナリ今回ノ會議ニ於テ英仏妥協ノ結果トシテ本条審議ノ際仏委員ヨリ発言(英ノ慣用手段ニシテ常ニ他委員ヲシテ發言セシム)本条ハ殖民地ニ関係アレバ慎重審議ヲ要スト切り出シ英海軍委員ニ同意シ「セシル」ハ第一案ニテハ海軍力ニ限り世界各地ヲ行動シ得ル如ク規定セリト述

相互援助条約ヲメグル英仏伊三国ノ態度報告

ノ件

第一〇九番電 (八月十七日海軍省着)

一、今日ニ至ル迄数回會議ヲ經テ漸ク委員会ヲ通過セシ援助条約ヲ軍備制限ヨリ見レハ第九条ニ從ヒ第一段、各國援助保証ニ相当スト思考スル縮軍案ヲ個々ニ連盟理事会ニ提出シ第二段、連盟理事会ハ縮減案ヲ作製シ各國政府ノ承認ヲ求メ第三段、各國政府承認後縮減発動ノ順序ナリ之ヲ精細ニ研究スルニ第一段ニ於テ各國政府ハ他ト交渉ナク一方ニ於テ或國ガ特別協約ヲナスコトヲ知リツ

如何ナル縮軍案ヲ提出スヘキヤ各國提案ノ縮軍分量極メテ疑ハシク第二段連盟理事会實際ノ処置トシテ右各國政府ノ提案ヲ軍事委員会ニ回付審議セシムル外途ナカラん是ヲ受ケタル軍事委員会ハ各國政府代表ハ軍人団ナルガ故自ラ自國提案ノ支持ニ努ムベク縮軍案ノ作製ハ極メテ困難ナラン仮ニ一案ヲ得ルトシテ第三段是ヲ各國政府ニ回付シ各國政府是ヲ認ムルヤ又疑ハシク要スルニ縮軍ノ計画方法ハ現在連盟規約ト異ナル所無シ

三一〇 八月十四日 在パリ清河海軍少将ヨリ
財部海軍大臣、山下軍令部長各宛 (電報)

仏國側ガ留保セル援助条約第十三条報告ノ件

(八月十五日海軍省着)

第一〇八番電 仏國委員ガ留保ヲ声明セシ援助条約第十三条左ノ如シ

第十三条 本条約ニ調印セサル國際連盟各員ハ連盟書記長ニ加入通牒ヲ發シ本条約ニ加入スルヲ得書記長ハ之ヲ他締約國ニ通報スヘシ國際連盟ニ属セサル國ハ調印國三分ノ二ノ同意ニ依リ本条約ニ加入スルコトヲ得

理事会ノ指示スル國際連盟ノ軍事及其他ノ代表者ニ供給スルヲ約ス

註、本条ハ連盟第一回以來行惱ミタル情報交換問題ト同趣旨ノモノナルカ故ニ異論多カリシモ最近軍事委員會

ヲ多数ニテ通過シ曾テ倫敦特別委員會ニ於テ英海軍委員ハ留保セシカ今回ノ會議ニ於テ(理事会ノ指示及要

求)ハ全員一致ヲ要スルモノナリト念ヲ入レ英委員留保ヲ解キ多数ニテ通過セリ

三一一 八月十六日 在パリ清河海軍少将ヨリ
財部海軍大臣、山下軍令部長各宛 (電報)

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 三一〇 三一

モ重大事項ハ連盟理事会ノ全員一致ヲ要スルカ故發動疑
ハシク条約ニ依リ實際各國ノ負フ所ハ現連盟規約ト殆ト
異ナル所ナシ

三、斯ノ如キ条約案生レ出テタル經緯ノ当初英ハ連盟ヲ利
用シ仏ノ軍備ヲ縮小セシメントシタルニ対シ仏ハ連盟規
約第八条國家安全ノ条項ヲ固執シツツ安全ノ保障ヲ求メ
シニ始マリ保障具体化シ理屈ヲ張合フニ從ヒ仏ハ特別條
約主張トナリ一般條約主義トナリ「セシル」モ遂ニ特別
條約ト云フ点迄妥協ノ已ムナキニ至リ最近「ルール」問
題、賠償問題等ノ影響ヲ蒙リ体裁丈ニテモ英仏妥協ノ色
ヲ世間ニ示スト云フ他ニ政治的理由存シ一方ニ於テ創立
以来三ヶ年ヲ経テ連盟内ニテ多大ノ費用消耗(不明)トシ
テモ今日何物カヲ作製スヘキ破目トナリ本條約ノ通過ヲ
見タル次第ナリ

四、独リ伊ハ初ヨリ純理論主義ヲ採リ連盟ハ一般的性質ナ
ルヘキヲ論シ（裏面英、仏妥協ニ反対シ特ニ反仏ノ意味
モアリテ）今尚之ヲ止メス今回モ特別條約主義ヲ否認シ
強硬ニ留保声明セリ又仏ハ当初英案ノ根本タリシ一般條
約主義ヲ殆ト覆シ特別條約主義ニ入り條約条項ヲ殆ト連

條約ト云フ点迄妥協ノ已ムナキニ至リ最近「ルール」問
題、賠償問題等ノ影響ヲ蒙リ体裁丈ニテモ英仏妥協ノ色
ヲ世間ニ示スト云フ他ニ政治的理由存シ一方ニ於テ創立
以来三ヶ年ヲ経テ連盟内ニテ多大ノ費用消耗(不明)トシ
テモ今日何物カヲ作製スヘキ破目トナリ本條約ノ通過ヲ
見タル次第ナリ

三一二 八月十六日 財部海軍大臣、山下軍令部長各宛
(電報)
相互援助条約ニ關スル清河代表ノ陳述報告ノ件

第一一〇番電

(八月十七日海軍省着)

今回會議ニ於テ小官ハ我訓令ノ一般條約主義ナルニ鑑ミ依
然從前ノ態度ヲ維持シタリ即チ第一讀会ニ於テ軍備制限条
項ニ入りタル小官ハ「共同ノ敵ヲ有スル場合ト雖軍事協定
ハ概ネ当事者双方ノ軍備ヲ増大ニ導クヲ常トシ敵ヲ異ニス
ル場合特ニ然リ殊ニ協約精確ヲ要スルニ伴ヒ双方共軍備不
足ヲ感スルヲ常トスル故或ニ二國カ特別條約ニ入ルコトハ軍

備ヲ増大ニ導クモノニシテ第三者第四者タル国ハ軍備ノ相
互關係上其ノ影響ヲ受ケ軍備ヲ増大セサルヲ得ス之レ予ガ

一般軍備縮減ノ目的ニ鑑ミ特別條約ヲ認ムルコトニ反対ス
ル理由ナリ」ト述ヘシニ「セシル」ハ此ノ異議ハ重大ナリ

ト言ヒ協調案中「防護協約ヲ保障スル軍事協定カ縮軍ヲ考
慮スルニ足ルトキハ」ノ辭句ヲ削除シテ条件ヲ緩和シ第八

条ノ如ク修正セシニ小官ハ尚同意セス第二讀会ニ於テ主義
トシテ特別條約ヲ認ムル条項即チ第六条ニ入りタルトキ伊
国委員及松田委員ノ声明ニ次テ小官ハ再ヒ「軍事専門委員
トシテ軍備ト特別條約トノ関係ニ関シ予ハ軍事上ノ所信変
更ヲ得ス」ト声明ニ當リ議長ハ留保付賛成ヲ認メシカ本条
約カ一般ト特別ヲ包含スル以上特別條約關係事項ヲ含ム条
項多キヲ以テ松田委員ト話合ノ上小官ノミ全体トシテモ反
対セル結果伊国委員ト小官ノ四名ノミ反対スルコトトナレ

リ本委員会ニ於テ委員ノ所說ハ軍事委員会並ニ政府ノ所見
ヲ拘束セサルモノナレハ右小官ノ処置ハ今後當局ノ行動ニ
何等累ヲ生セサルモノト了解ヲ乞フ特ニ小官ハ軍事委員タ
ル個人的専門ノ意見ナリト言明シアルヲ以テ今後形勢ニ依
リ政治的妥協ノ余地ヲ充分存ンアル次第ナリ

一、第三回連盟總会軍備制限決議第十四ニ關シ政府トシテ
今日迄回答セルハ「フランス」「スペイン」「ルクサン
ブルグ」「ハンガリー」「アルバニア」「パナマ」「ヴ
エネズエラ」「ノールウェー」「ブルガリア」「ルーマ
ニア」ノ十ヶ国ナリ何等参考迄

第一一三番電

三一三 八月二十一日 在パリ清河海軍少將ヨリ

財部海軍大臣宛(電報)

第三回連盟總会軍備制限決議第十四ニ關スル

各國ノ回答振報告ノ件

一、特別條約ハ締約國共通ノ危險ニ對シ具体的ニ準備ス
ルモノ故之ニ依リ縮軍ヲ行ヒ得
ルモノ可トゼン

二、「スペイン」ハ一般條約ヲ主張シ且特別條約ヲ排斥シ

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 三一四

三六〇

特ニ次ノ三項ヲ掲ク

イ、所謂侵略國ノ意義ヲ明カニスルコト

ロ、總会決議ノ規定区画ナル用語ハ援助ノ程度及形式ヲ

取極ムルニ限り特殊ノ場合ノ用兵計画ト解釈セス

ハ、海軍ニ関シテハ赴援地域ヲ限定セス

四、仏、西以外ノ八ヶ国回答ハ強大国ノ圧迫ヲ輕減セント
スル底意ヲ以テ軍縮ノ必要ヲ高唱シツツ各自國ノ立場ヲ
擁護スルニ努メ條約ニ關シテハ「ハンガリア」ガ明カニ
「ノールウェー」及「ブルガリア」ガ暗ニ特別條約ニ反
対スルノ外爾余ノ國ハ之ニ触レ居ラス唯「ノールウェ
ー」ハ縮軍ヲ實行スルニハ必スシモ保障條約ヲ要セスト
回答セリ

三一四 八月二十五日 内田外務大臣ヨリ
在パリ松田連盟事務局長宛（電報）

相互援助條約案ニツキ訓令ノ件

第四六一號

貴電連第一八二号ニ關シ

一、軍備ノ縮減ハ主要軍國ヲ網羅スル一般的條約ノ方法ニ
依リ一般的ニ之ヲ行フニ非ラサレハ其ノ目的ヲ達スルコ

ト能ハス相互保障條約モ亦軍備制限ノ一手段トシテ世界
ノ主要國ヲ包含スル一般的ノモノナラサル可カラス少數
國ノ一團カ相互ニ其ノ安全ヲ保障スルカ如キ軍備競争ヲ誘致コ
ソスレ真ニ軍備制限ノ条件タリ得ヘキ保障ト云フヲ得ス
即チ保障條約ハ軍備ノ縮減ト同シク一般的ナラサレハ其
目的ヲ達スルコトヲ得ストスル帝國政府ノ見解ハ累次ノ
電報ニヨリ御承知ノ通ナル處第八回混成委員会カ多數ヲ
以テ採用セル條約案ハ一般條約ト協合シテ一種ノ特殊協
約ヲ認メタルカ為一般協定ノ色彩ヲ著シク薄弱ナラシム
ルノ結果トナリタルノミナラス保障ノ精神ニ背馳シテ連
盟内ニ相対立スル多數ノ集團ヲ生セシムニ至ル虞顧著
トナリタルモノアルヲ以テ今回ノ條約案ハ其ノ儘ニテハ
到底同意シ難ク帝國トシテハ飽ク迄モ一般條約ヲ骨子ト
スル保障條約ヲ欲スル次第ナルカ若シ一般特殊兩條約ノ
併立ヲ可トスル多數諸國ノ意見ナルニ於テハ條約案第八
条第一項ヲ削除シ特殊協約國ノ即時行動ヲ認メス理事会
ノ決定ヲ待ツテ援助ヲ与フル条件ニ於テノミ特殊協約ノ
併立ヲ認ムルコトト致シ度シ

一、右ノ方針ニ基キ第八条第一項削除ノ外

(1)、第三条ニ理事会力脅威ノ有無ヲ審査スルノ方法ヲ規
定スルノ可否並ニ同条中濫ニ脅威ノ訴ヲ為スモノニ対
スル制裁ヲ設クルコトノ可否ニ付キ研究ノ余地ヲ残シ
置クコト

(2)、第四条中侵略國ノ決定ヲ公正且權威アルモノナラシ
ムル方法ニ付キ研究ノ余地ヲ残シ置クコト

(3)、第四条末項 *a moins que* 以下ヲ削除スルコト

(4)、第十条供給ス可キ軍事報道ノ性質範囲ニ付一定ノ制
限ヲ設クルコト

第五九号

（十月十日接受）

第十二回軍事委員会去ル四日ヨリ開催議題ハ軍事委員会秘
書、「アイルランド」、「アビシニー」両國連盟加入問題而
已ニシテ何レモ大ナル故障ナク議事終了ス相互保障條約案
ハ總会第三委員会ニ於テ目下研究中ニシテ未ダ何等ノ結論
ニ到著セズ

三一六 九月三十日 在ジュネーヴ會議全權ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

連盟總会第三委員会ニ於ケル相互援助條約案 等討議ノ件

（欄外註記）大正十二年八月二十五日閣議協定済

(5)、第十一条大陸ノ意義ヲ明確ニシ日本國ト屬領トノ関
係ニ付キ明細ナル規定ヲ設クルコト
(6)、第十八条甲案ヲ採用スルコト
ト致度政府ノ方針ナリ

三一五 九月十五日 在パリ林、清河、静間代表ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

第十二回軍事委員会議事報告ノ件

連盟第二四号

（九月十七日接受）

是ヨリ先本條約案ハ理事会ニ付議サレ理事会ハ之ヲ總会ニ

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 三一五 三一六

三六一

移報スルト同時ニ法律委員会ヲ任命シ杉村之ニ出席之ヲ第三委員会ノ補助タランメタリ本委員会ノ討議ハ逐条ノ審議ニ依リ各国ノ意見ヲ第一読会ニテ交換スル事トナリタルニ依リ當方ヨリハ貴電御訓令ノ趣旨ニ基キ提案並意見ノ陳述ヲ為シ伊太利其他我レト同様ノ見解ヲ有スル各國委員ト連絡ヲ取リタルモ結局我方ノ提案ハ通過セズ

加之他ノ諸國ニ於テモ其主張貫徹セサルモノアリ連日ノ討議モ遂ニ何等一致ノ意見ニ到達セサルモノアリシニヨリ第十五回會議ニ於テ日、仏、伊、「チエッコ」、羅馬尼亞ノ五委員ヨリ總会ハ第三委員会ノ一部ハ個人的意見ナカラ意見交換ノ結果修正ヲ加ヘタル相互援助條約案ヲ了承シ委員会ニ於テ意見ノ相違アリ且多數ノ政府ハ第三總会ノ決議第十四ニ關シ意見ヲ開示セサルニ顧ミ理事会カ右ノ條約案ヲ各國政府ノ研究ニ任シ其意見ノ開示ヲ求メンコトヲ要求ストノ決議案ヲ提出シ兎ニ角不完全ノ儘ナカラ各國政府ノ意見ヲ問フ事トセリ右ハ折角今日迄ノ條約案ノ成果ヲ打捨ツルハ考ヘ物ナルト同時ニ輿論ノ手前ヲモ考慮シタルモノナリ尚條約案ニ付テハ法律委員会ノ意見ヲ出来得ル限り容レ然ラサルモノハ之ヲ参考トシテ條約案ニ付スル事トセリ右

ハ廢止ヲ主張シタルガ結局輿論ノ思惑ヲモ慮リ尚一年継続ト決セリ

三一七 十月二日 在パリ清河海軍少將ヨリ
財部海事及ビ伊集院外務大臣宛（電報）

ワシントン海軍条約普及ニ関スル連盟理事會

決議ノ件

第一一六番電

（十月三日接受）

一、今回連盟總會中理事會ハ華府海軍條約普及ニ關シ左記ヲ決議セリ

(一)理事會ハ混成委員会ノ推選ニ基キ華府海軍條約ノ主義

文書番号十一年四七七)ヲ華府條約ニ加入セサル國並ニ連盟加入國ニアラサル國ニ普及スル問題ノ審議ヲ軍事委員会ニ訓令ス

(二)理事会ハ海軍専門的見地ヨリ右軍事委員会案ガ一般ニ承認サルルヲ目的トシ右案ノ再審議ヲ軍事委員会ニ要

求ス而シテ之カ為軍事委員会ハ華府條約又ハ平和條約ニ依リテ既ニ海軍力ヲ規定セル以外ノ國ニシテ軍事委員会ガ必要ナリト思考スル國ノ海軍専門委員ト協力ス

議センコトヲ提議ス

一、右決議ニ基キ小官（議長）ハ日英仏伊墨（西班牙、瑞

典委員不在）ノ委員ヲ集メ臨時海軍部会ヲ開キ協議ノ結

果海軍部会ノ名ヲ以テ左記要旨ヲ理事会議長ニ通知セリ

（要旨）

明年一月二十一日ヨリ「ジュネーヴ」ニ於テ亞爾然丁、

伯刺西爾、智利、丁抹、西班牙、仏蘭西、英國、希臘、

伊太利、日本、諾威、和蘭、露西亞、瑞典、土耳其、海

軍委員參集シ華府海軍條約普及ノ件ヲ審議スヘキニ付責

任アル海軍専門委員ヲ指名參列セシメラレ度

三、右ノ如ク參列員ヲ限定シタルハ華府條約ノ内容カ主ト

シテ主力艦ノ制限ナルヲ以テ之ヲ有セサル國ヲ招請ノ要

ナキコト並ニ來ル會議ハ専門家ノ会合ニシテ云ハバ予備

會議ノ如キ性質ノモノナルヲ以テ余リ多數ノ委員会ハ議

事ノ纏マリ惡キヲ考慮セシニ依ルモノナリ

四、来る一月會議ハ常設委員会ニ屬セサル多數ノ委員ヲ集ムモノニシテ純然タル海軍部会ニハアラサルモ常設委員会之ヲ主宰スルカ故ニ小官議長ノ職ヲ執ルコトトナルヘシ

前回總亦以後小官ハ海軍部長タルニ回時リ海設軍事委員会議長ナリ

III-8 十月二十九日 在パリ松田連盟事務局長ニ
伊集院外務大臣宛

ハハハハハ海軍条約ノ原則普及ヲ目的トスル

軍事常設委員会海軍部会ニ専門家派遣ノ件

付屬書一 連盟事務総長発伊集院外務大臣宛十月十九日

付書簡(甲号)

軍事常設委員会海軍部会ニ本邦ノ軍事専門家

派遣方招請ノ件

II 在仏國石井大使発連盟事務総長宛十月二十九

日付書簡(乙号)

右ニ対スル回答

大正十二年十月二十九日

國際連盟帝國事務局長 松田道一(臣)

外務大臣照應 伊集院彦吉謹

華府条約ノ原則普及ヲ目的トスル軍事常設委員会

軍部会ニ専門家派遣ニ關スル件

連本公第1五九号 (十一) 円十二(口接受)

連盟理事会ノ決議ニ基キ軍事常設委員会海軍部会(明年)

月二十一日ニ華府条約ノ原則普及ヲ目的トスル條約案ノ再審査ニ從事ヘル筈ニテ連盟事務総長ニ別紙甲号書翰(C. L. 119. 1923. IX) ハ以テ帝国側ニモ特ニ軍事専門家派遣方招請有之候条右茲ニ及転達候追而右書翰ニ依ルモ帝国側ヨリ本件ニ関シテ特別ノ使命ヲ帶シタル専門家派遣方招請セハル理由ハ稍々了解ニ若シム次第ニ有之加之前記當設軍事委員会海軍部会ニハ当然帝國海軍代表モ参加致ス可キ次第ニ有之右以外ニ特殊ノ専門家ニ派スルコトハ毫モ其ノ必要ヲ認メザルニ付別紙乙号ハ以テ此ノ旨連盟事務総長迄回答方取計置候条御含置相成度此段申進候也

(付屬書一)

連盟事務総長発伊集院外務大臣宛十月十九日付書翰(甲号)

軍事常設委員会海軍部会ニ本邦ノ軍事専門家派遣方招請ノ件

SOCIETE
DES
NATIONS
C. L. 119. 1923. IX.-

Geneva, 19th October, 1923.

Sir,
In a letter dated February 17th. (C. L. 13/1923-IX),

I had the honour to inform you that the Council of the League of Nations had decided to act upon a recommendation adopted by the Third Assembly, containing the summoning of an International Conference, to be held at Geneva, as soon as possible after the Santiago Conference, for the purpose of examining the possibility of extending the principles of the Washington Naval Treaty to States Members of the League and non-signatories to the said Treaty.

During its last Session, the Council, in order to prepare the way for this Conference, decided that the draft Naval Convention drawn up by the Permanent Advisory Commission, and intended to serve as a basis for the discussion, should be revised and extended so as to include the armaments of States not Members of the League.

To this end, the Council adopted the following resolution:-

"1. The Council, on the recommendation of the Temporary Mixed Commission, instructs the Permanent Advisory Commission to consider the question of the extension of its technical scheme,

with regard to the application of the principles of the Washington Naval Treaty, to those States which have not signed the said Treaty, and which are not Members of the League of Nations.

"2. The Council further requests the Permanent Advisory Commission to reconsider its original draft Convention with a view to its universal acceptance from a naval technical point of view, and, for this purpose suggests that the Commission should call into collaboration Experts of such Nations concerned—other than those whose naval armaments are already fixed by the Washington Treaty or by Treaties of Peace—as they may consider desirable."

After considering the above resolution, the Naval Sub-Commission of the Permanent Advisory Commission (composed of the naval representatives of Brazil, Spain, France, Great Britain, Italy, Japan and Sweden) decided to hold a meeting at Geneva on January 21st, 1924, to which, at the expense of their Governments, the naval representatives of the Argentine, Chile, Denmark, Greece, Norway, the Netherlands, Russia and

Turkey should be invited to attend, these being the only Powers at present in possession of vessels corresponding to the definition given in the Treaty of Washington of "capital ships" and whose armaments have not yet been fixed by Treaties. These Powers, together with all the other Powers, whether they possess a Navy or not, will be summoned to the International Conference which is to meet later.

Acting upon this decision, I have the honour to beg you to be good enough to appoint, should you desire to do so, naval experts to take part in the preliminary work for the International Conference which will be accomplished by the Permanent Advisory Commission at the Session to be held next January.

I have the honour to be,

Sir,
Your Obedient Servant.

Eric Drummond
Secretary-General.

His Excellency
The Minister of Foreign Affairs

Tokio.

Ambassadeur du Japon
à Paris.

Sir Eric Drummond,
Secrétaire Général de la
Société des Nations,
Genève.

(第六回乃至第八回連盟委員会関係書類参照) 聞事会(右
総会へ決議ヲ遂行ベル為メ必要ノ手段ヲ採リムトヲ事務
総取リ委員会ノ以テ今般事務総長ヨリ別紙書翰(省略) C. L.
105. 1923. IX ル以テ相互援助条約案ニ關ベル混成委員会
及第三回委員会へ総会(右ベル報告ヲ送付越シ且ツ明春尚早
キリ及シテ我方回答ニ接シ度キ申越候条右書翰及添付書
類及転達候也)

三一九 十月三十一日 在パリ松田連盟事務局長

伊集院外務大臣宛

相互援助条約案ニ關ベル混成委員会及第三回
委員会ノ総会(右ベル報告送付)ノ件

大正十二年十月三十一日

在ペリ

國際連盟帝國事務局長 松田彌一 (臣)

外務大臣伊集院彦吉

相互援助条約案送付ノ件

連本公第117〇号

(+1) 円十一日接致)

第四回連盟総会ノ混成委員会ノ相互援助条約案ヲ審議シタ
ル第三回委員会ノ報告ニ基キ右条約案ヲ各國政府ニ送付シ其
意見ヲ回示セバシテ求マル趣旨ノ決議ヲ採択シタルガ

% Délegation du Japon à la Société des Nations,
9, rue La Pérouse,

Paris.

(本属相手)

在仏國石井大使兼連盟事務総長宛十一月十九日書簡(ノ印)
右リ対ヘル回答

29 octobre, 1923.

Monsieur le Secrétaire Général,

J'ai l'honneur de vous accuser réception de votre
lettre en date du 19 octobre 1923, référence C. L. 119.
1923. IX, adressée à notre Ministre des Affaires Etran-
gères à Tokio.

En réponse, j'ai l'avantage de vous communiquer
que mon Gouvernement ne voit pas la nécessité de
nommer un expert naval pour prendre part aux travaux
préliminaires de la Conférence Internationale, étant
donné que le Japon est représenté d'une manière perma-
nente à cette Commission, qui assumera les dits travaux.
Veuillez agréer, Monsieur le Secrétaire Général,
l'assurance de ma haute considération.

(Signé) K. Ishii

六 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 三一一一

General Alexieff, Gangu, Poltava, Paris-Commune,

Marat ノ六隻ナリ

三一、「ムハマ」ノ主力艦制限ヲ三万六千噸トス即ナ Sultan

Selm, Torghud Reis, Idjaliyah ノ隻ナリ

四、締約各國ノ航空母艦総噸数ハ同國主力艦総噸数制限額ノ三分ノ一ヲ超過セサルコト

五、本条約ニ依リ廃棄スヘキ艦ハ将来戦争用ニ供シ得サルニ至ラシムル作業ヲ本条約効力発生後六月以内ニ完了シ又其全廃棄処分ヲ同シク十八月以内ニ完了スルコト

六、第三条第八条ニ依リ代艦ヲ得ヘキ廃棄艦ニアリテハ該代艦ノ完成期日以前第一期廃棄作業ニ着手シ之ヲ前記完成期日後六月以内ニ完了シ又其全廃棄処分ヲ同シク十八月以内ニ完了スルコト但シ代艦ノ建造が遅延スル場合ニハ代艦ノ起工後四年以内ニ廃棄艦ノ第一期作業ニ着手シ爾後六月以内ニ之ヲ完了シ十八月以内ニ全廃棄処分ヲ完了スルコト

原文郵送ス

三一一一 十二月十八日 在仏國石井大使(ヨリ)
伊集院外務大臣宛(電報)

シ本問題ハ来ル三月ノ連盟理事会ニ再ヒ上程セラルヘキ処其ノ際本使ノ執ルヘキ態度ニ閔シ御訓示相成度シ

三一一一 十二月二十八日 在ペリ清河海軍少将ヨリ
財部海軍大臣山下軍令部長各宛(電報)

ワシントン海軍条約普及ニ関スル海軍部会ノ

開催期日ニ關スル件

第一二六番電 (十二月二十九日海軍省着)

海軍部会ハ来ル一月末「ジュネーヴ」ニ開会ノ予定ナリシ處今回連盟理事会ハ右招請ニ対スル各國ノ回答未着ナルモ

ノ多ク且一月中ニハ連盟ノ處理スヘキ重要ナル諸会合多キノ故ヲ以テ海軍部会ヲ二月後半ニ延期スルヲ可トスル旨決議シ議長タル本職ニ同意ヲ求メ来レリ之ニ対シ特ニ反対スヘキ理由ナキヲ以テ同意セリ

一方ニ於テ露國ハ海軍部会ニ海軍代表派遣方應諾スルモ瑞西ガ「ローザンヌ」會議ノ際露國全權暗殺者ヲ出シ且該犯人ヲ处罚セサルノ故ヲ以テ開催地トシテ瑞西ヲ忌避スル旨回答セリ依テ國際連盟ハ其ノ威信ヲ損セサル方法ヲ講シツツ會議地ヲ他ニ変更セントスル模様アリ

第十一十七回連盟理事会ニ於ケル軍備制限問題 ニ関スル英國ノ態度報告ノ件

三一六八 連第二五五号 (十二月十九日接収)

本月十日ヨリ已里ニ第二十七回連盟理事会開カレ各種問題大体議了セラレ最早洪牙利救済ノ件ヲ残スノミトナレリ右理事会ニ於ケル大小三十ノ問題中特ニ注意スヘキ点ハ軍備制限ニ関スル英國政府ノ態度ナリキ第四回連盟総会ニ於ケル軍備制限決定第二項ノ(b)（即チ軍備制限一般計画ノ議定セラレ且採用セラル迄陸海空軍ニ関スル現予算額ヲ増額セラレサル様理事会ヨリ各國政府へ勧告スル件ニ付理事会ニ於テ例外的状況ノ下ニ在ルモノト認メラレタル経費増額ハ此ノ限ニ在ラストノ条項）ニ関シ英國理事ハ我カ政府ハ右理事会ノ認定權ヲ承諾スルヲ困難トスルモノニシテ現在ニ於テハ本件ニ付完全ナル自由ヲ留保セサルヲ得ス兎モ角本問題ヲ次回迄延期セラレ度シト提議シタリ本件ニ関シ瑞典理事ハ我國モ亦日下軍事編成改正中ニテ其ノ範囲ヲ限定シ得サル事情ニ有ルヲ以テ右延期説明ニ賛成スト述ヘ他ニ異議無クシテ次回迄延期スルコトニ決定シタリ惟フニ右英國提議ハ香港、新嘉坡防備問題ト関連スルハ勿論ナルヘ